

## 第3章

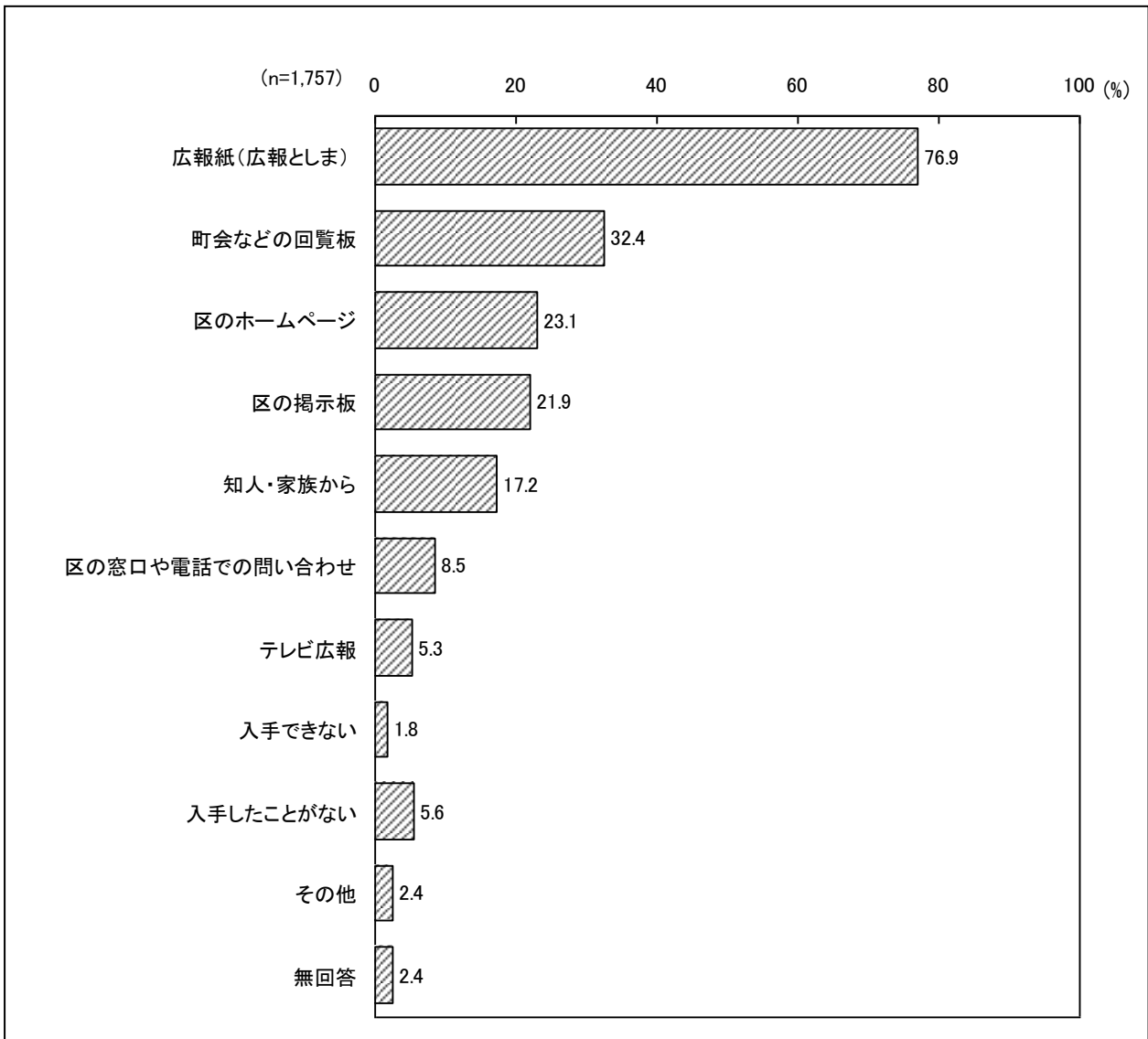
### 区の情報・窓口サービス・政策等について



## 第3章 区の情報・窓口サービス・政策等について

### 1 区の情報を知るための手段〔問5〕

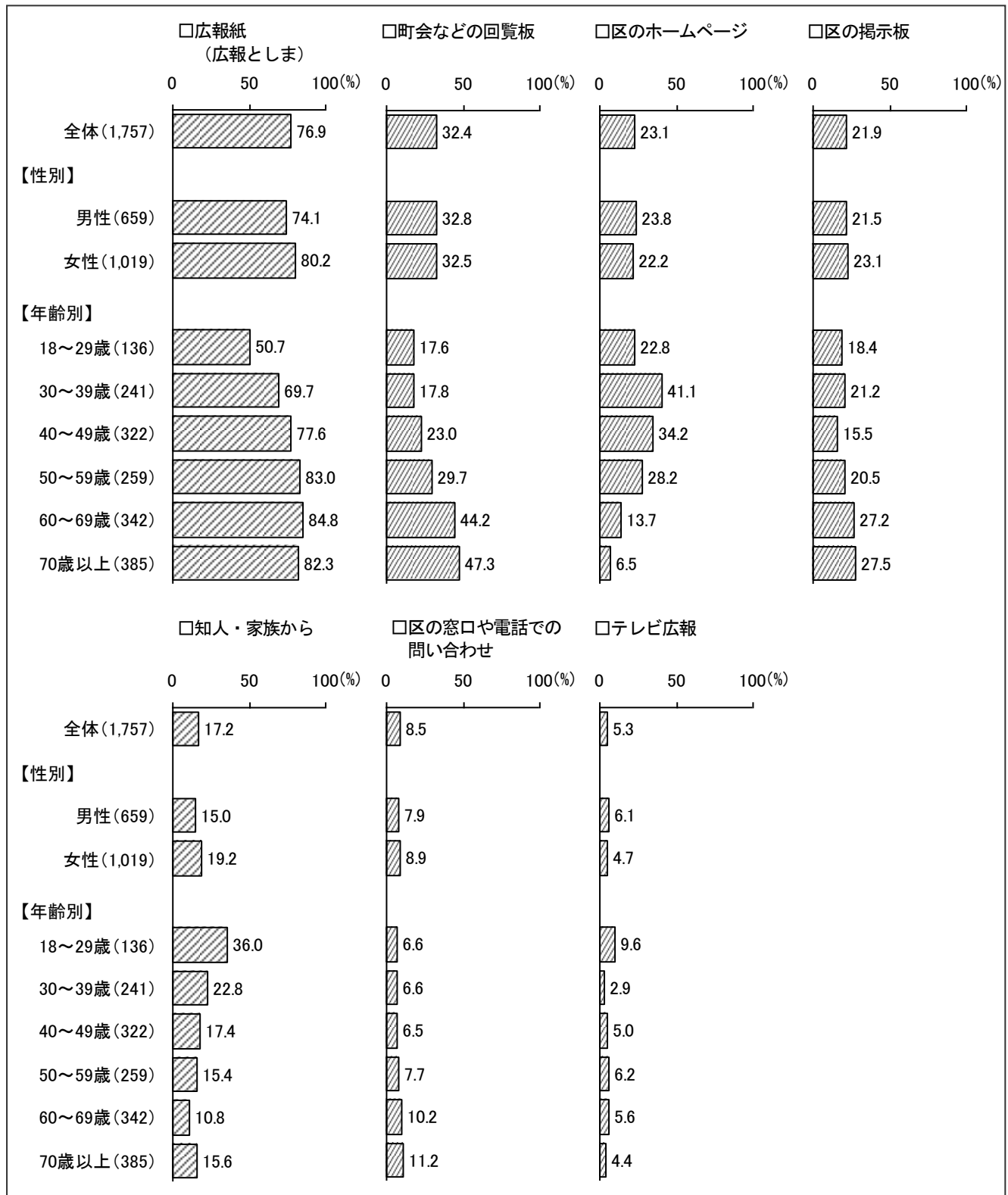
- 区の情報を知るための手段について聞いたところ、「広報紙（広報としま）」（76.9%）が7割台半ばと最も高く、以下、「町会などの回覧板」（32.4%）、「区のホームページ」（23.1%）、「区の掲示板」（21.9%）などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

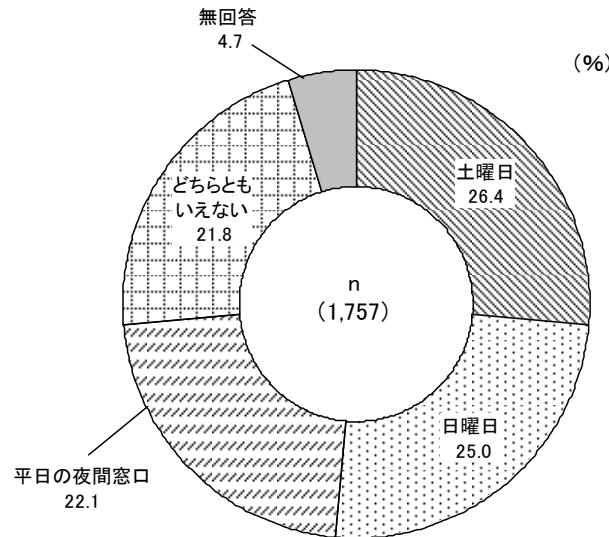
**【性別・年齢別】**

- 性別で見ると、「広報紙（広報としま）」は、女性（80.2%）が男性（74.1%）よりも6.1ポイント高くなっている。その他の項目では大きな違いはみられない。
- 年齢別で見ると、「広報紙（広報としま）」と「町会などの回覧板」は年齢が上がるほど高くなっている。一方、「区のホームページ」は30～39歳（41.1%）が最も高く、年齢が上がるほど低くなる傾向がみられる。



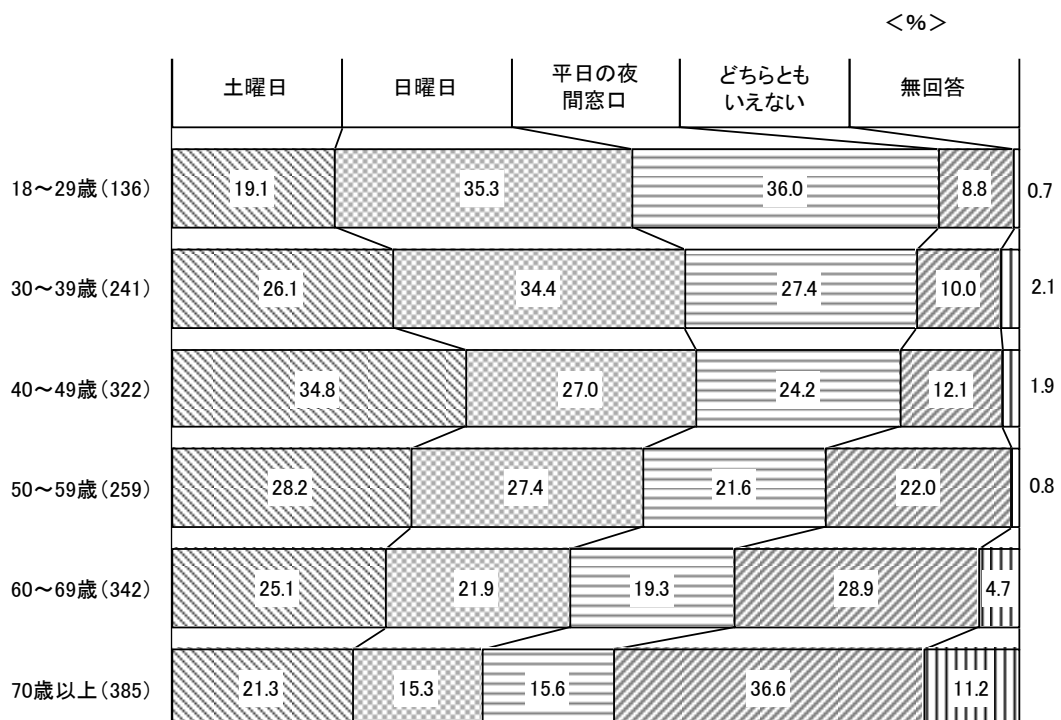
## 2 土・日曜日の開庁、夜間窓口の利用しやすさ〔問6〕

- 土・日曜日の開庁や夜間窓口の利用しやすさについて聞いたところ、「土曜日」(26.4%)と「日曜日」(25.0%)がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。



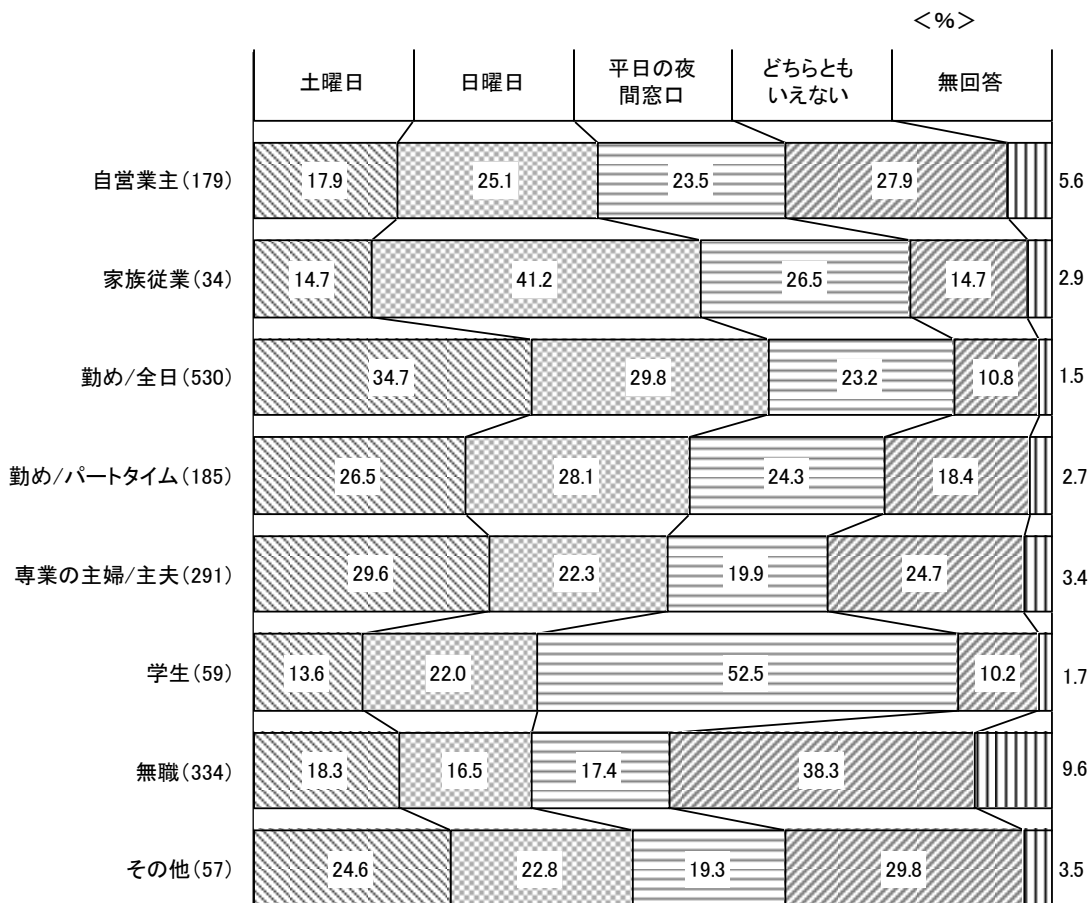
### 【年齢別】

- 「土曜日」は40～49歳(34.8%)で3割台半ばとなっている。
- 「日曜日」は18～29歳(35.3%)と30～39歳(34.4%)で3割台半ばとなっている。
- 「平日の夜間窓口」は18～29歳(36.0%)で3割台半ばとなっている。



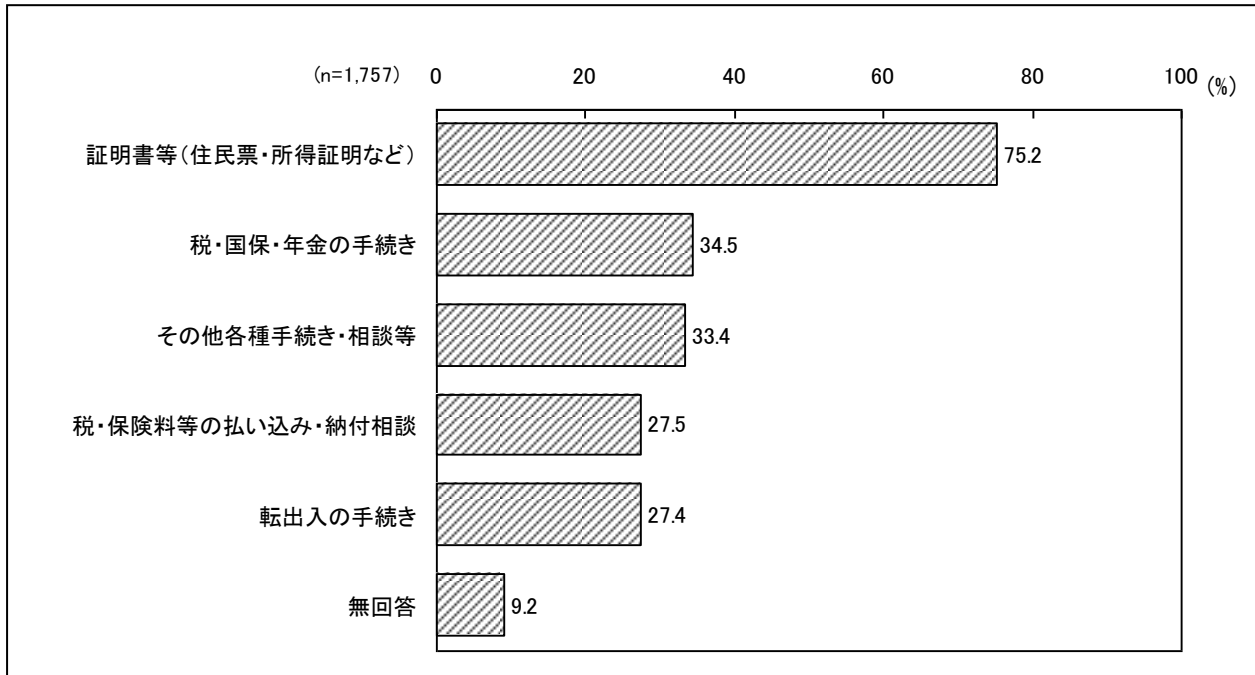
**【職業別】**

- 「土曜日」は、勤め(全日) (34.7%)で3割台半ばと最も高く、以下、専業の主婦(主夫) (29.6%)、勤め(パートタイム) (26.5%) などとなっている。
- 「日曜日」は、家族従業 (41.2%) で約4割と最も高く、勤め(全日) (29.8%) と勤め(パートタイム) (28.1%) で約3割となっている。
- 「平日の夜間窓口」は、学生 (52.5%) で5割強と最も高く、家族従業 (26.5%) と勤め(パートタイム) (24.3%) で2割台半ばとなっている。



### 3-① 土・日曜日、夜間窓口の利用したいサービス〔問7〕

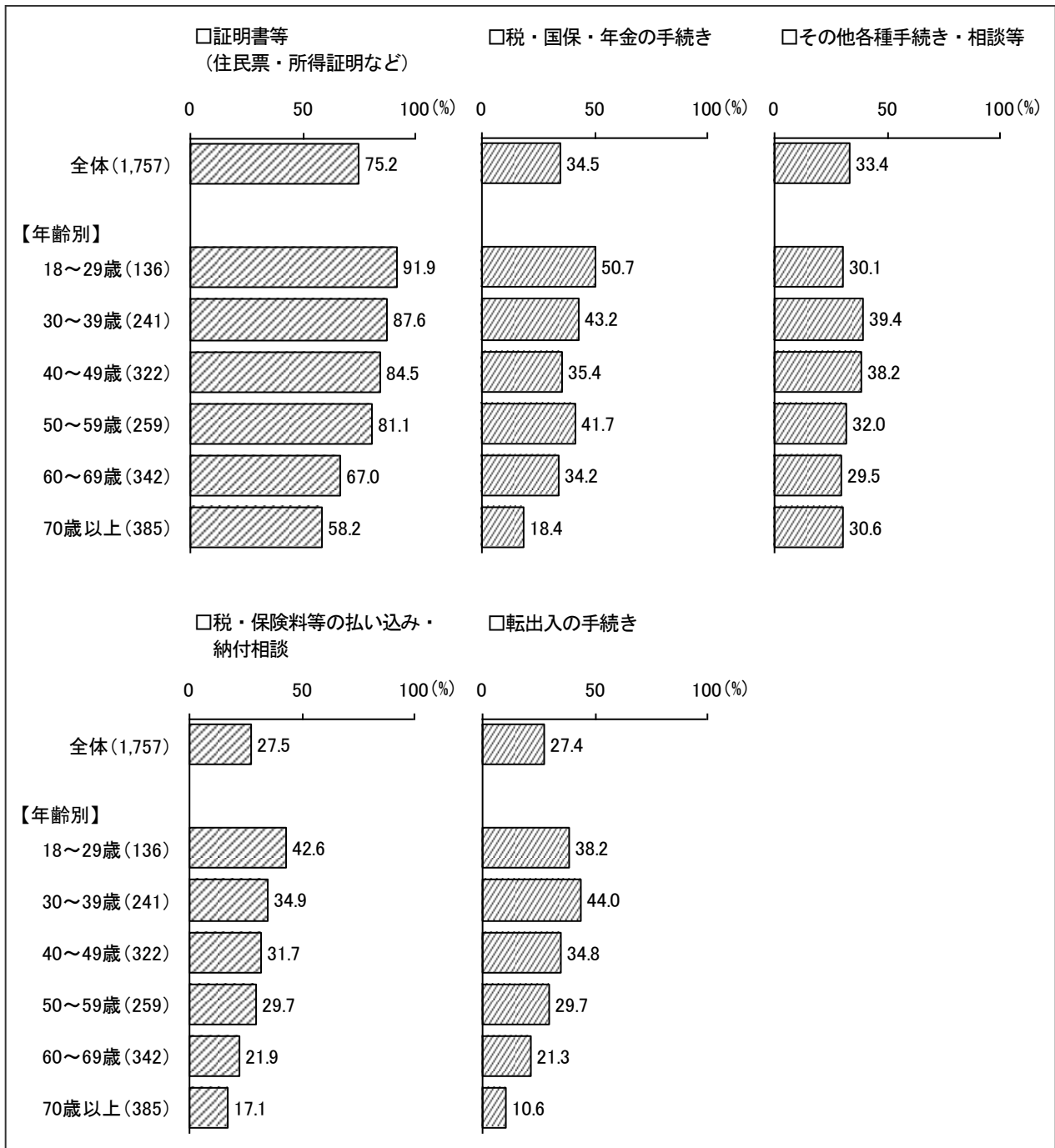
- 土・日曜日、夜間窓口の利用したいサービスについて聞いたところ、「証明書等（住民票・所得証明など）」（75.2%）が7割台半ばと最も高く、以下、「税・国保・年金の手続き」（34.5%）、「その他各種手続き・相談等」（33.4%）などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

**【年齢別】**

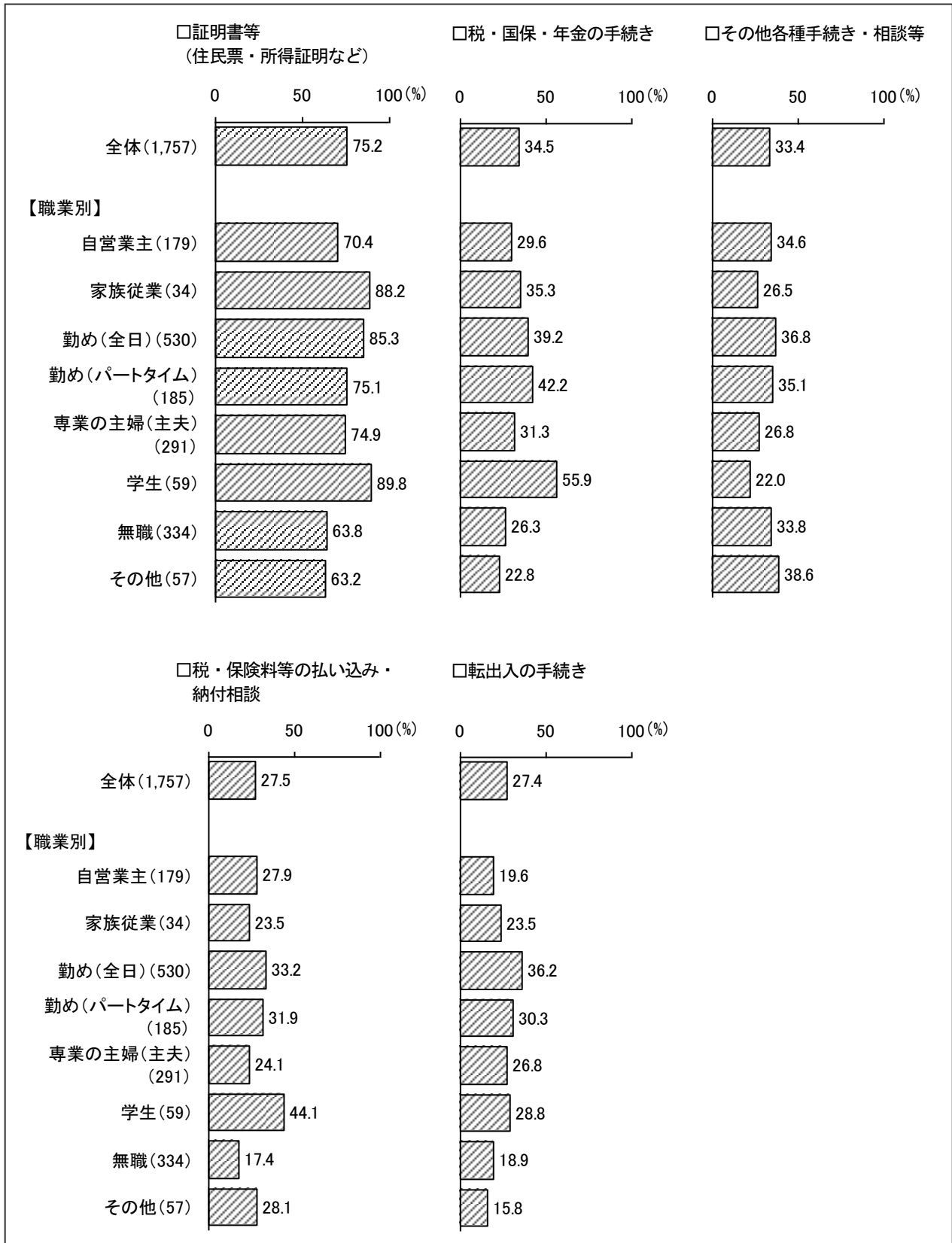
- 「証明書等（住民票・所得証明など）」は、年齢が下がるほど高くなり、18～29歳（91.9%）では9割を超えている。
- 「税・国保・年金の手続き」は、18～29歳（50.7%）で最も高く、以下、30～39歳（43.2%）、50～59歳（41.7%）となっている。





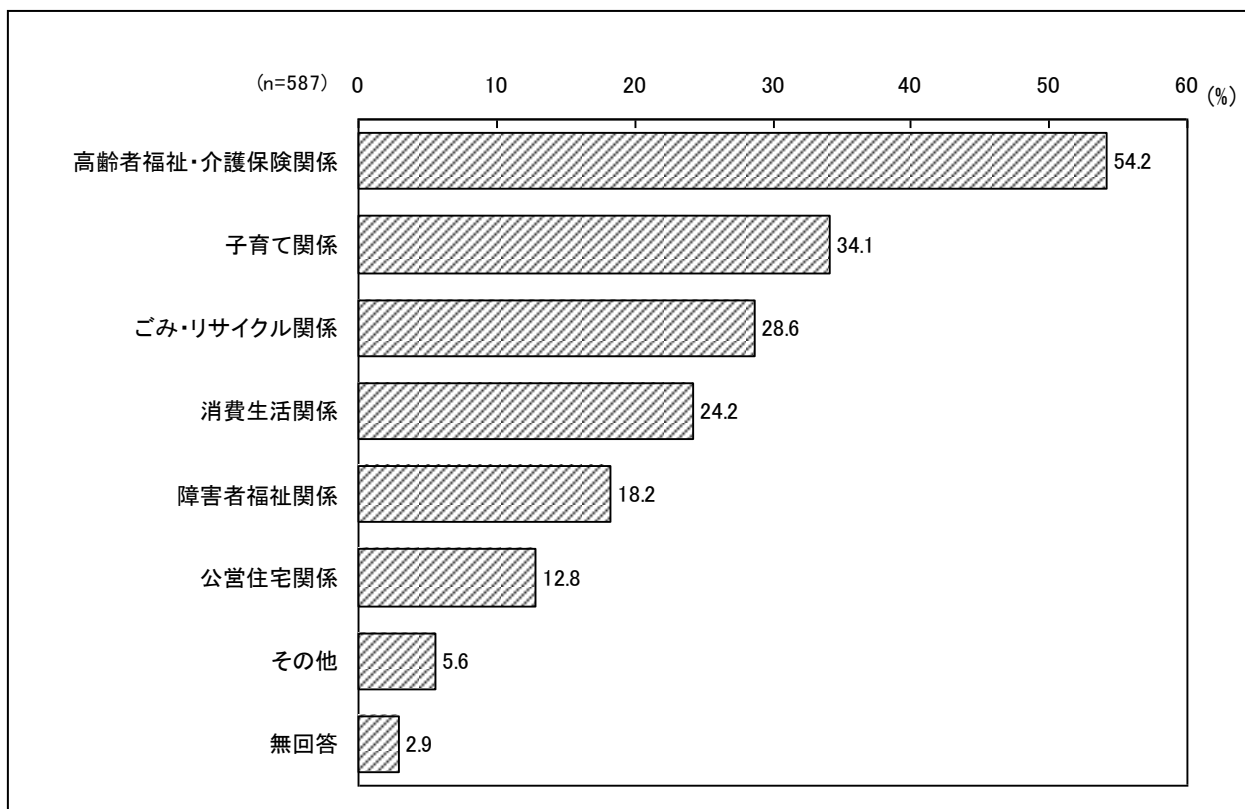
【職業別】

- 「証明書等（住民票・所得証明など）」は、学生（89.8%）と家族従業（88.2%）で約9割と高くなっており、以下、勤め（全日）（85.3%）で8割台半ばとなっている。
- 「税・国保・年金の手続き」は、学生（55.9%）で最も高く、5割台半ばとなっている。



### 3-② 利用したい手続き・相談〔問7-1〕

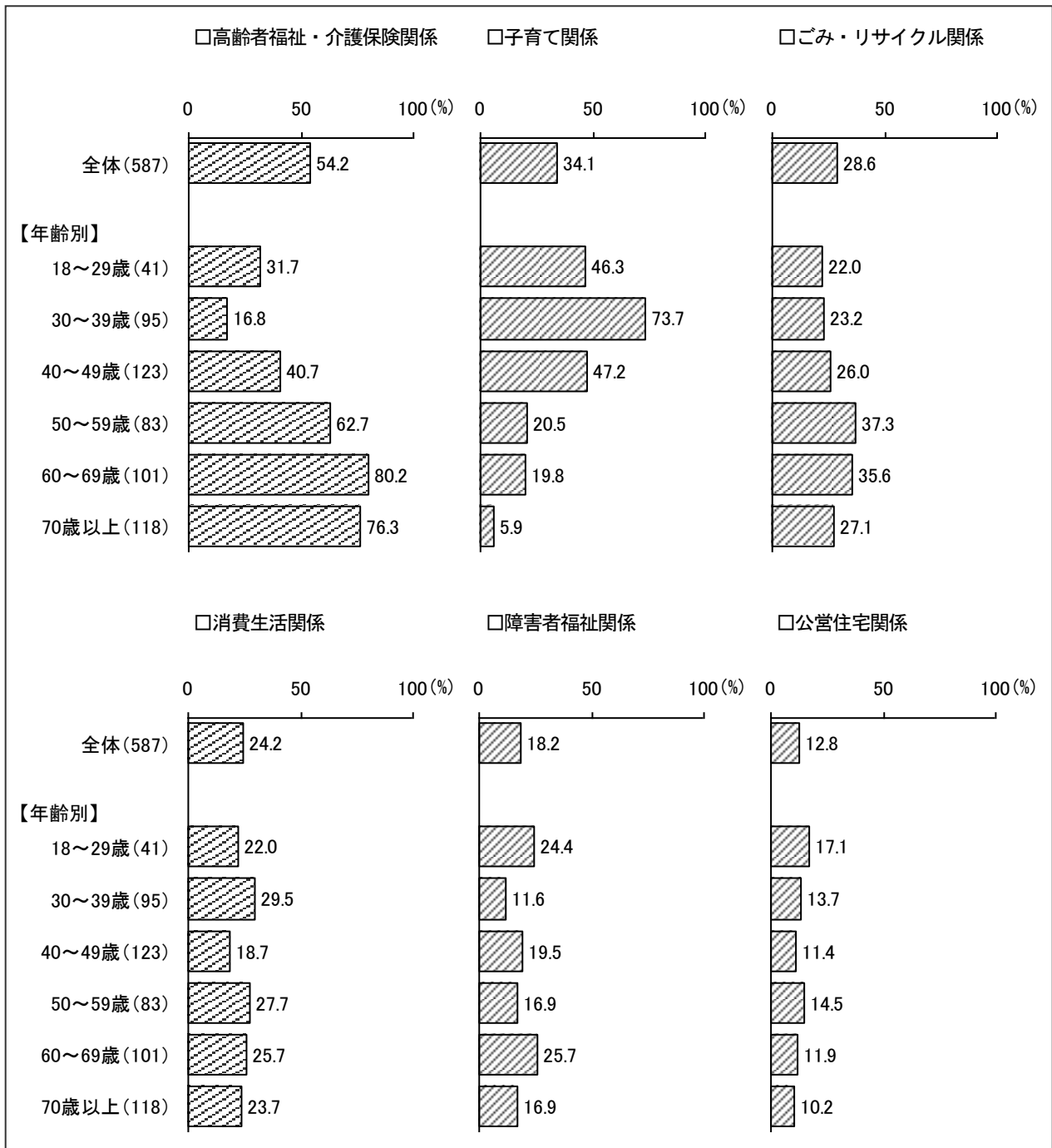
●〔問7〕の土・日曜日、夜間窓口の利用したいサービスについての設問に対し、「その他各種手続き・相談等」と答えた方に、利用したい手続き・相談について聞いたところ、「高齢者福祉・介護保険関係」(54.2%)が5割台半ばと最も高く、以下、「子育て関係」(34.1%)、「ごみ・リサイクル関係」(28.6%) などとなっている。



※3つ選択

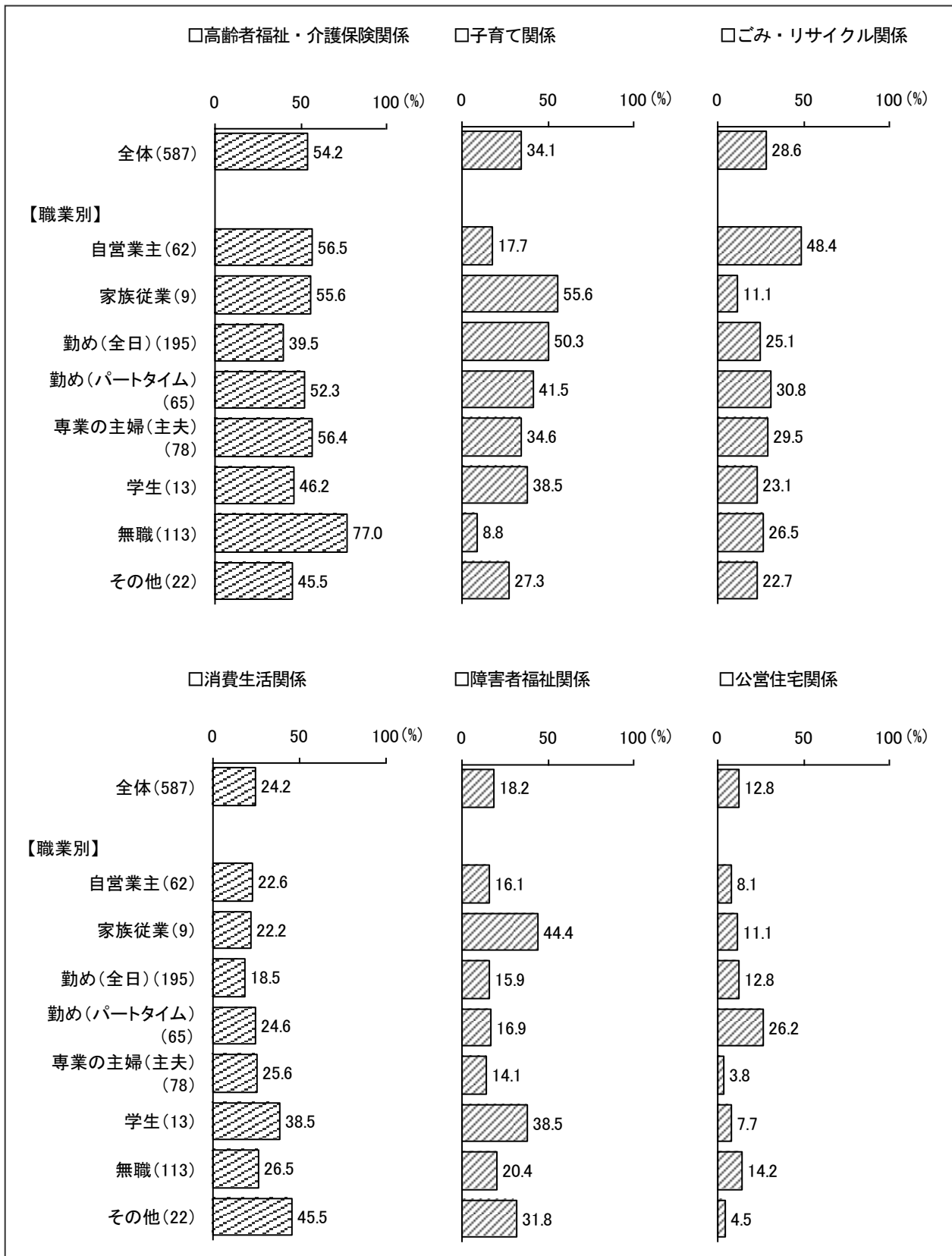
【年齢別】

- 「高齢者福祉・介護保険関係」は、60～69歳（80.2%）で約8割と最も高くなっている。
- 「子育て関係」は、30～39歳（73.7%）で7割台半ばと最も高くなっている。



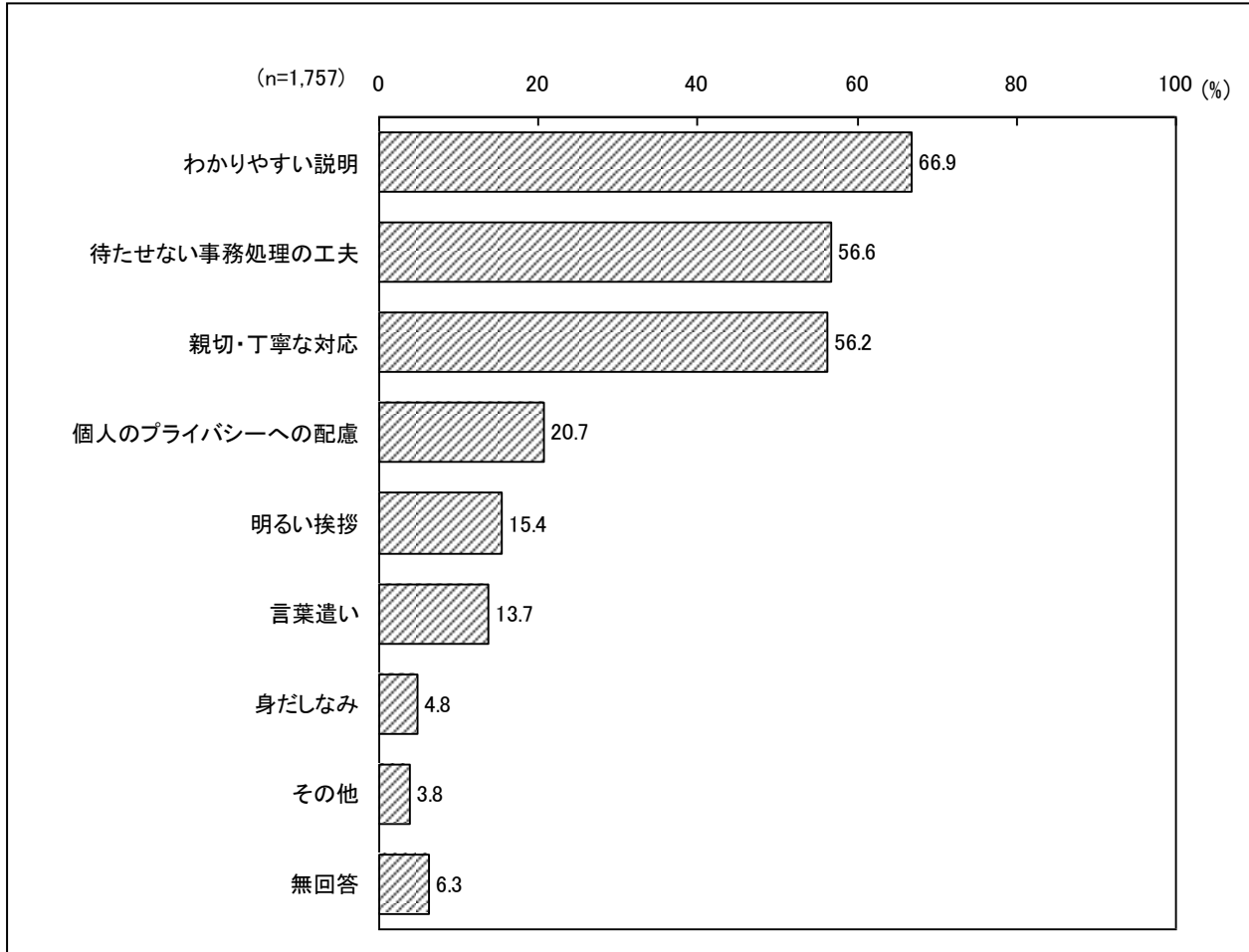
【職業別】

- 「高齢者福祉・介護保険関係」は、無職（77.0%）で7割台半ばを超え最も高くなっている。
- 「子育て関係」は、家族従業（55.6%）で5割台半ばと最も高く、次いで、勤め（全日）（50.3%）となっている。



## 4 職員対応について注意すべき点〔問8〕

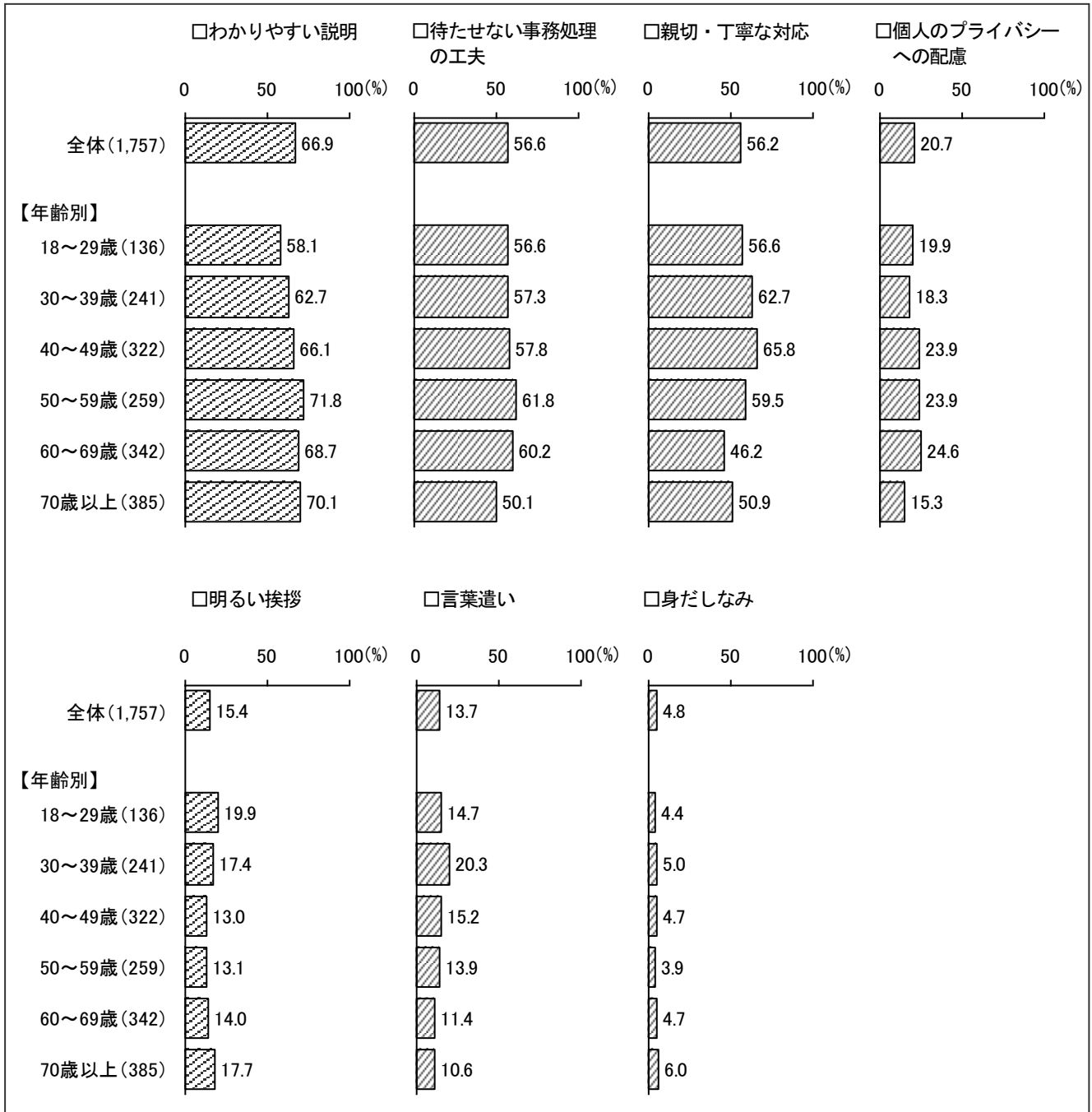
- 職員対応について注意すべき点について聞いたところ、「わかりやすい説明」(66.9%)が6割台半ばと最も高く、以下、「待たせない事務処理の工夫」(56.6%)、「親切・丁寧な対応」(56.2%)などとなっている。



※3つ選択

**【年齢別】**

- 「わかりやすい説明」は、50～59歳（71.8%）と70歳以上（70.1%）で7割を超えている。
- 「待たせない事務処理の工夫」は、50～59歳（61.8%）と60～69歳（60.2%）で6割を超えている。
- 「親切・丁寧な対応」は、40～49歳（65.8%）で6割台半ばとなっている。



## セーフコミュニティ活動の推進

2012 TOSHIMA CITY

セーフコミュニティ  
国際認証都市・豊島区

セーフコミュニティとは、「WHO地域の安全向上のための協働センター」が推進する、安全・安心まちづくりの国際認証制度です。2012年11月豊島区は、世界で296番目、日本で5番目、東京では初めて、この国際認証を取得しました。

セーフコミュニティは、「けがや事故等は、偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防できる」との理念に基づき、「横断的な連携・協働」と「科学的手法の活用」により、安全・安心と健康の質を高めていく活動です。

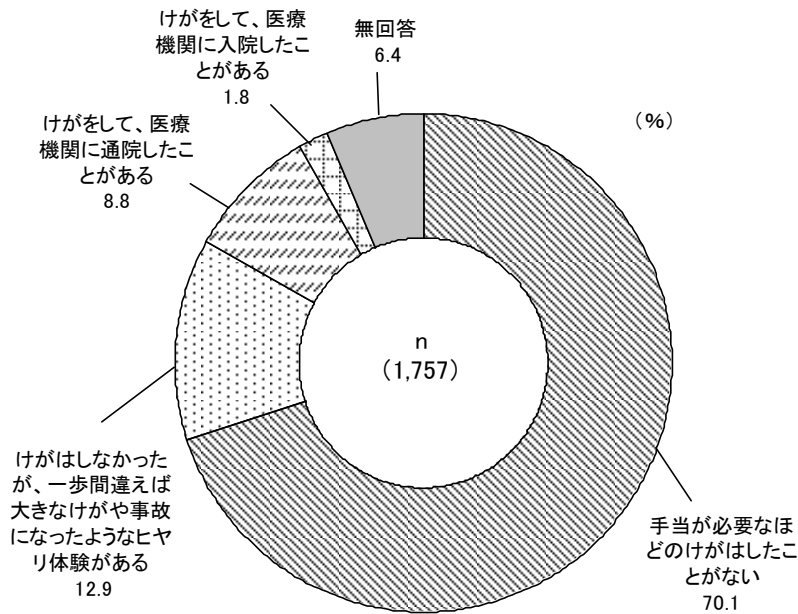
また、セーフコミュニティ活動では、様々な予防活動を展開するとともに、その効果や成果を科学的に分析し、改善を加えていきます。そのため、約70項目にわたり、活動の効果を測定する指標（成果指標）を設定しています。

次ページからの5から12の設問は、その指標の一部となっています。



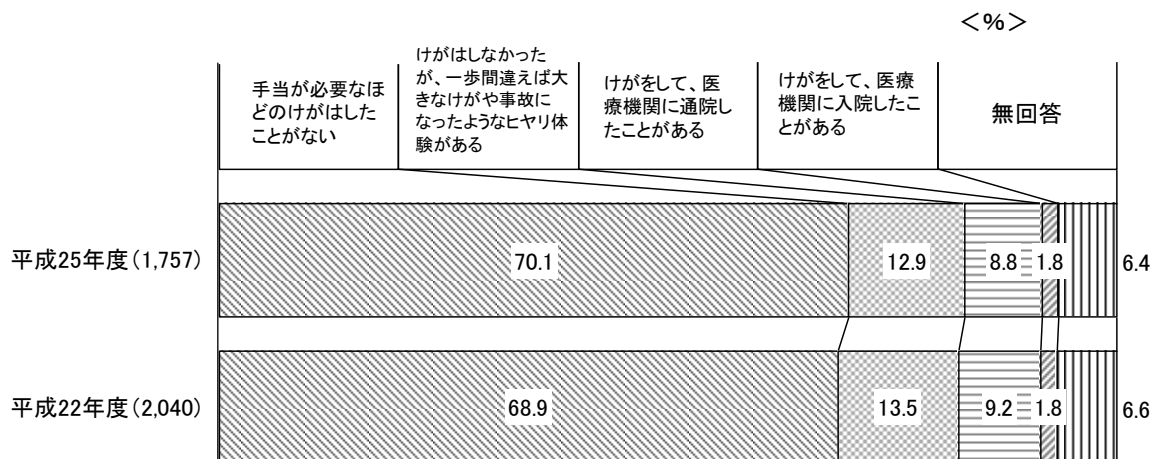
## 5 過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故〔問9〕

- 過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故について聞いたところ、「手当が必要なほどのけがはしたことがない」(70.1%)が約7割と最も高く、以下、「けがはしなかったが、一歩間違えが大きなけがや事故になったようなヒヤリ体験がある」(12.9%)となっている。



### 【経年比較】

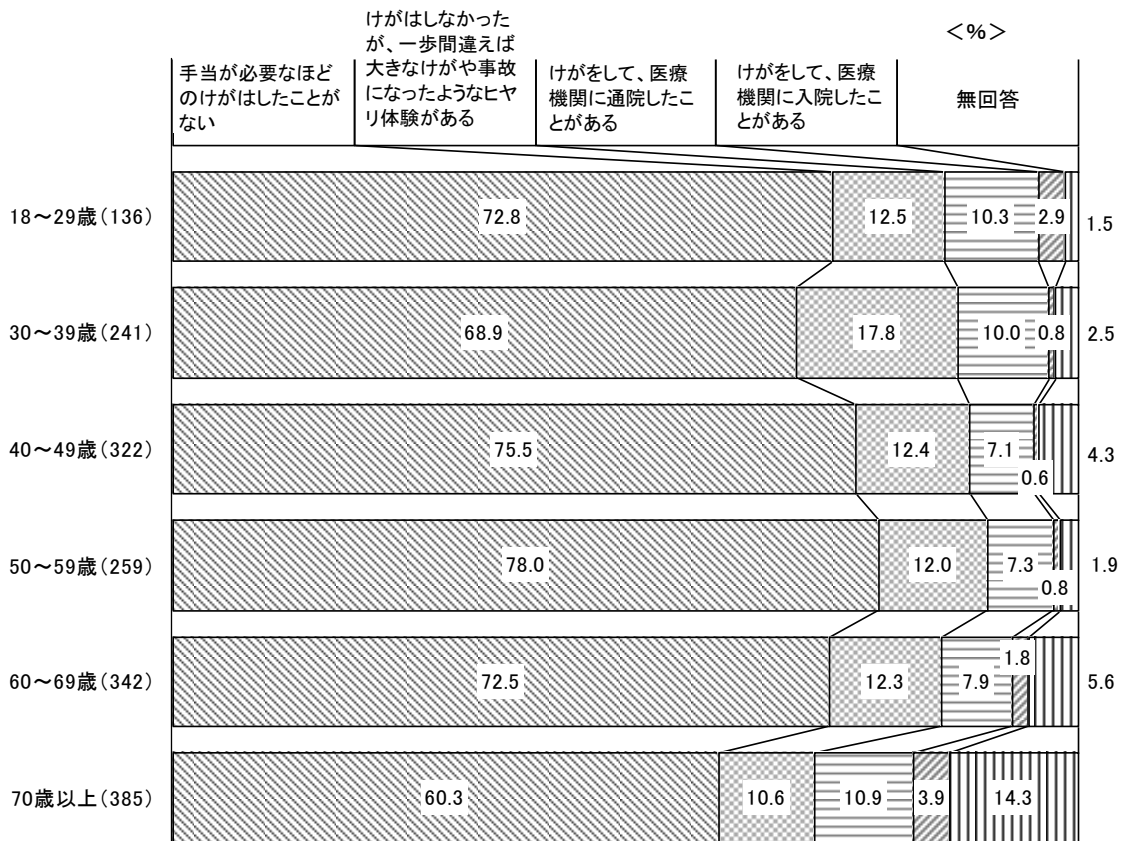
- 平成22年度と比較すると、いずれの項目も大きな違いはみられない。





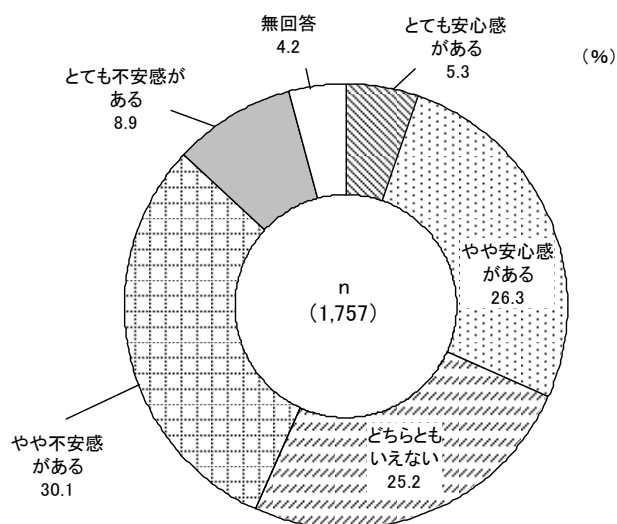
【年齢別】

- 「手当が必要なほどのけがはしたことがない」は、50～59 歳（78.0%）で8割弱と最も高く、以下、40～49 歳（75.5%）で7割台半ばとなっている。
- 「けがはしなかったが、一歩間違えば大きなけがや事故になったようなヒヤリ体験がある」は、30～39 歳（17.8%）で2割弱と高くなっている。
- 「けがをして、医療機関に通院したことがある」と「けがをして、医療機関に入院したことがある」を合わせた“医療機関に通院・入院したことがある”としてみると、70 歳以上（14.8%）と18～29 歳（13.2%）で1割台半ばとなっている。



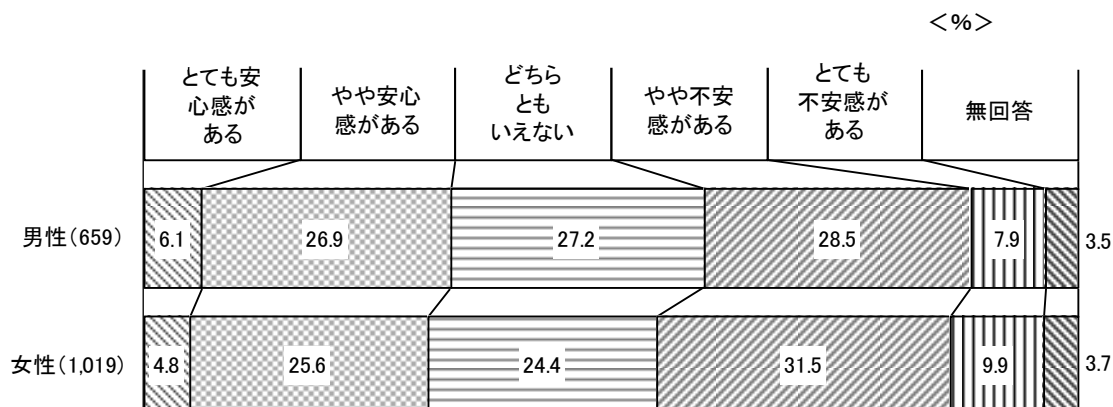
## 6 池袋駅周辺の体感治安〔問 10〕

- 池袋駅周辺の体感治安について聞いたところ、「とても安心感がある」(5.3%)と「やや安心感がある」(26.3%)を合わせた“安心感がある”(31.6%)としてみると、約3割となっている。一方で、「とても不安感がある」(8.9%)と「やや不安感がある」(30.1%)を合わせた“不安感がある”(39.0%)としてみると、約4割となっている。



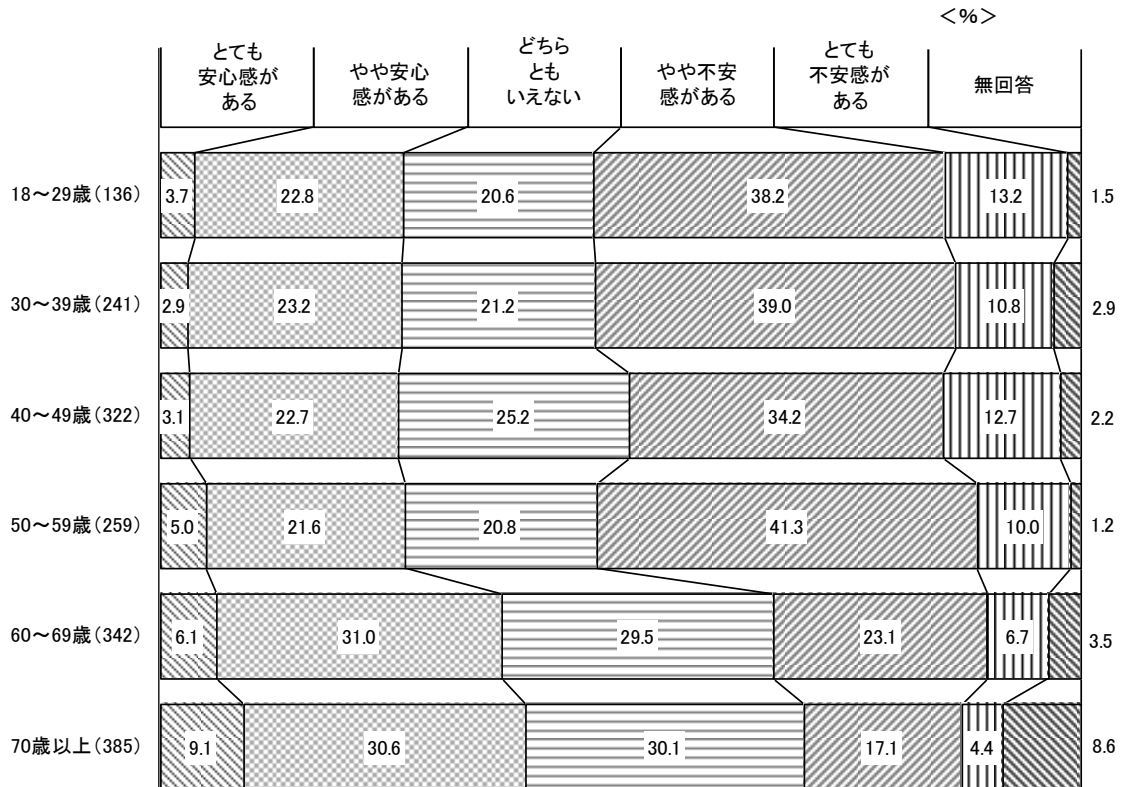
### 【性別】

- “安心感がある”は男性(33.0%)が女性(30.4%)よりも2.6ポイント高くなっている。
- “不安感がある”は女性(41.4%)が男性(36.4%)よりも5.0ポイント高くなっている。



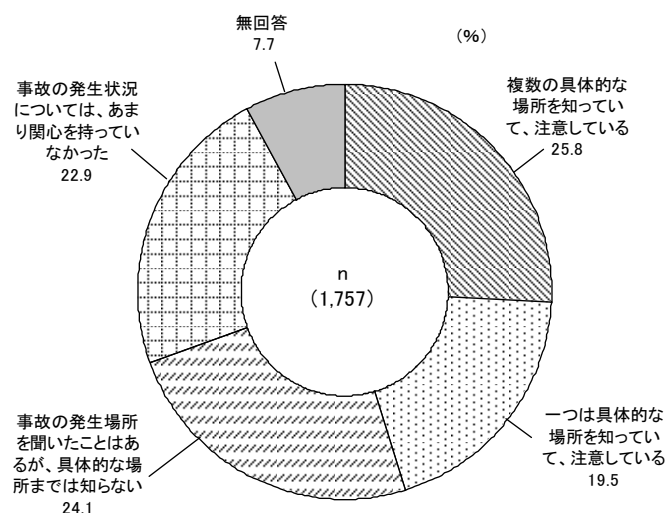
【年齢別】

- “安心感がある” は70歳以上（39.7%）と60～69歳（37.1%）で3割台半ばを超えている。
- “不安感がある” は18～29歳（51.4%）と50～59歳（51.3%）で5割を超えている。



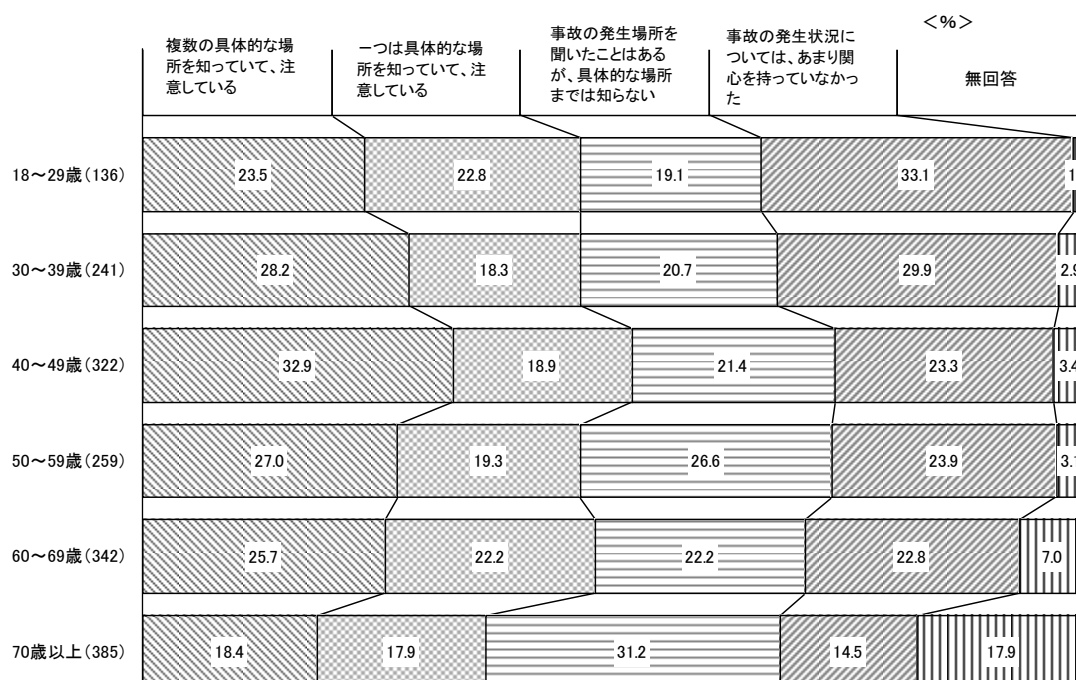
## 7 交通事故発生場所等の認知度〔問11〕

- 交通事故発生場所や危ないと思われる場所の認知度について聞いたところ、「複数の具体的な場所を知っていて、注意している」(25.8%)が2割台半ばと最も高く、以下、「事故の発生場所を聞いたことはあるが、具体的な場所までは知らない」(24.1%)、「事故の発生状況については、あまり関心を持っていなかった」(22.9%)などとなっている。



### 【年齢別】

- 「複数の具体的な場所を知っていて、注意している」は40～49歳(32.9%)で3割を超えている。
- 「事故の発生状況については、あまり関心を持っていなかった」は年齢が下がるほど高くなる傾向がみられ、18～29歳(33.1%)で3割台半ばとなっている。



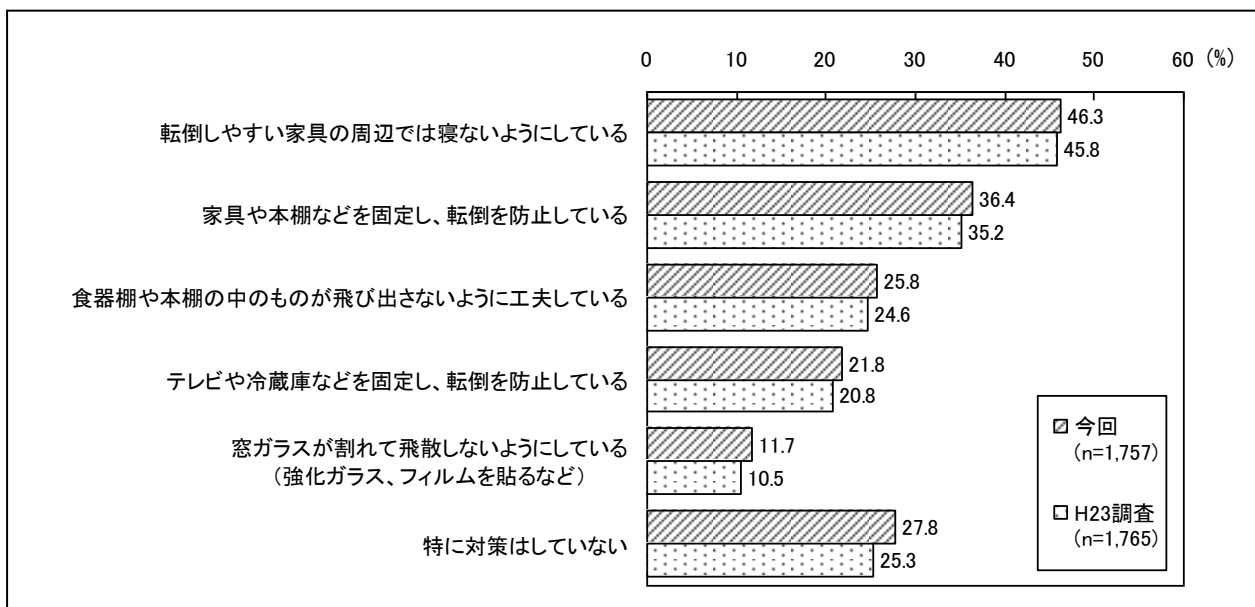
## 8 地震に備えた家具等の転倒防止対策〔問 12〕

- 屋内での家具等の転倒防止対策について聞いたところ、「転倒しやすい家具の周辺では寝ないようにしている」(46.3%)が4割台半ばと最も高く、以下、「家具や本棚などを固定し、転倒を防止している」(36.4%)、「特に対策はしていない」(27.8%)などとなっている。

順位	対策の内容	%
第1位	転倒しやすい家具の周辺では寝ないようにしている	46.3
第2位	家具や本棚などを固定し、転倒を防止している	36.4
第3位	特に対策はしていない	27.8
第4位	食器棚や本棚中のものが飛び出さないように工夫している	25.8
第5位	テレビや冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	21.8
第6位	窓ガラスが割れて飛散しないようにしている(強化ガラス、フィルムを貼るなど)	11.7

### 【経年比較】

- 平成 23 年度調査（セーフコミュニティに関する区民意識調査）と比較すると、いずれの項目も 0.5~1.2 ポイント高くなっている。
- 「特に対策はしていない」(27.8%)は 2.5 ポイント高くなっている。

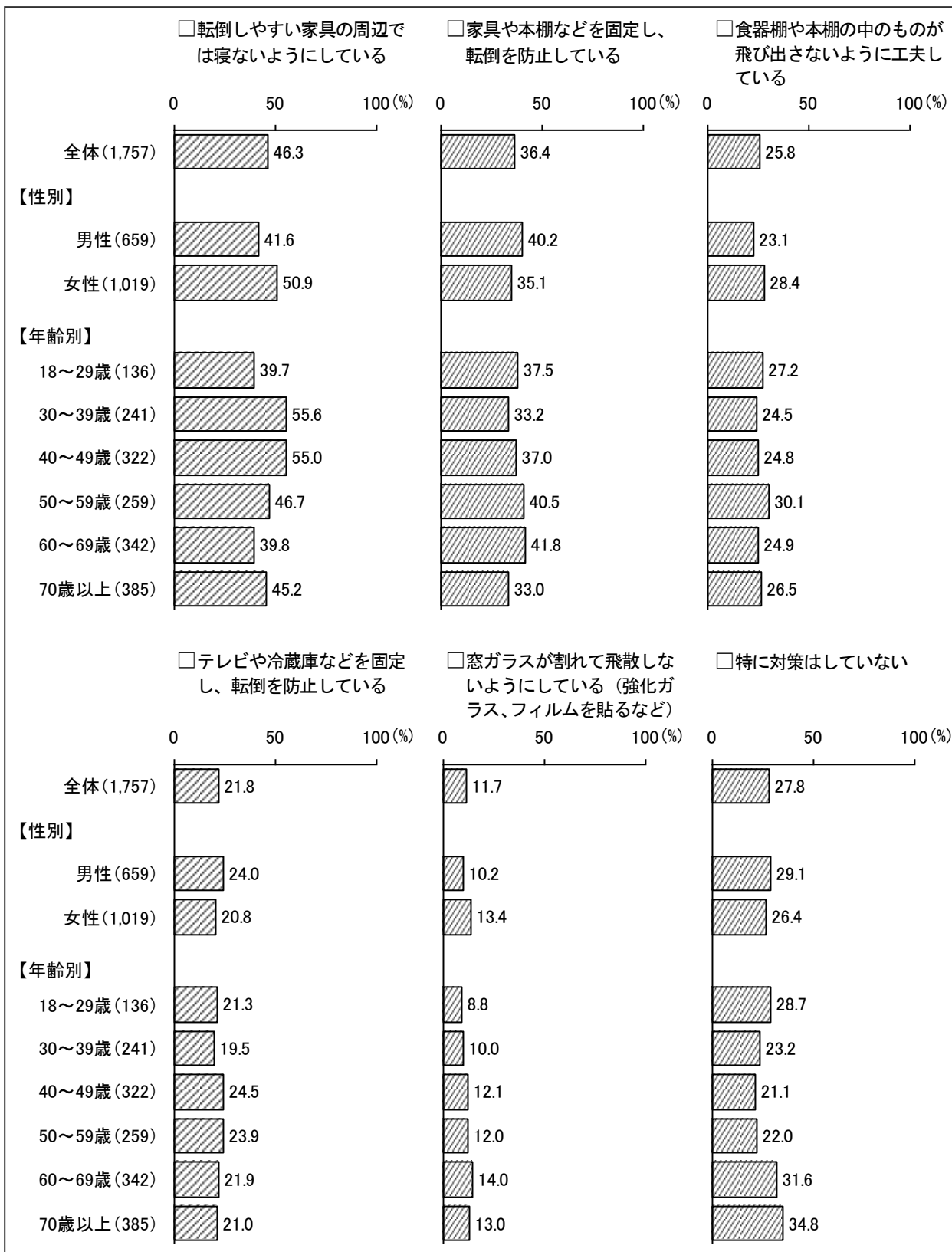


※あてはまるものすべて選択

豊島区では、セーフコミュニティの取り組みを広く区民に周知することを目的として、平成 23 年 12 月に「セーフコミュニティに関する区民意識調査」を実施しました。無作為抽出した 18 歳以上の区民（一般区民）7,000 人と、区内の保育園通園児の保護者 3,000 人を対象としており、本調査の〔問 12〕～〔問 14〕については、一般区民の結果と比較しています。

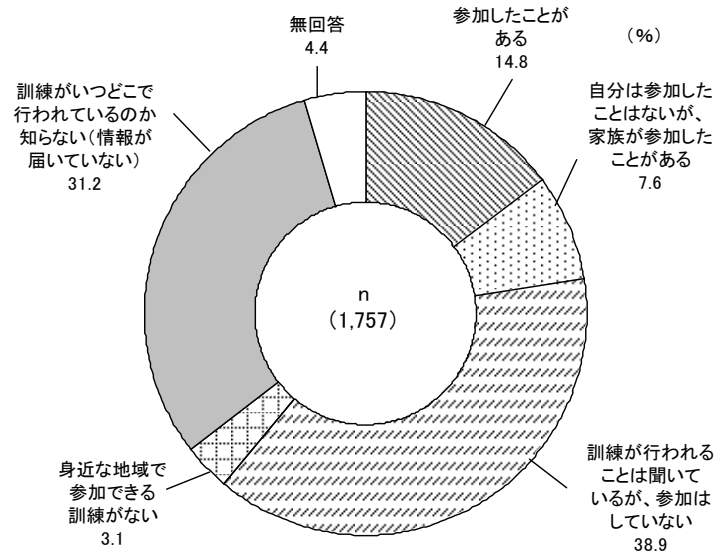
**【性別・年齢別】**

- 性別で見ると、「転倒しやすい家具の周辺では寝ないようにしている」は女性（50.9%）が男性（41.6%）よりも9.3ポイント高くなっている。
- 年齢別で見ると、「転倒しやすい家具の周辺では寝ないようにしている」は30～39歳（55.6%）と40～49歳（55.0%）で5割台半ばと高くなっている。また、「特に対策はしていない」は60歳以上で3割台と高くなっている。



## 9 防災訓練や避難訓練への参加〔問 13〕

- 防災訓練や避難訓練への参加の程度について聞いたところ、「訓練が行われることは聞いているが、参加はしていない」(38.9%)が約4割と最も高く、以下、「訓練がいつどこで行われているのか知らない(情報が届いていない)」(31.2%)、「参加したことがある」(14.8%)などとなっている。



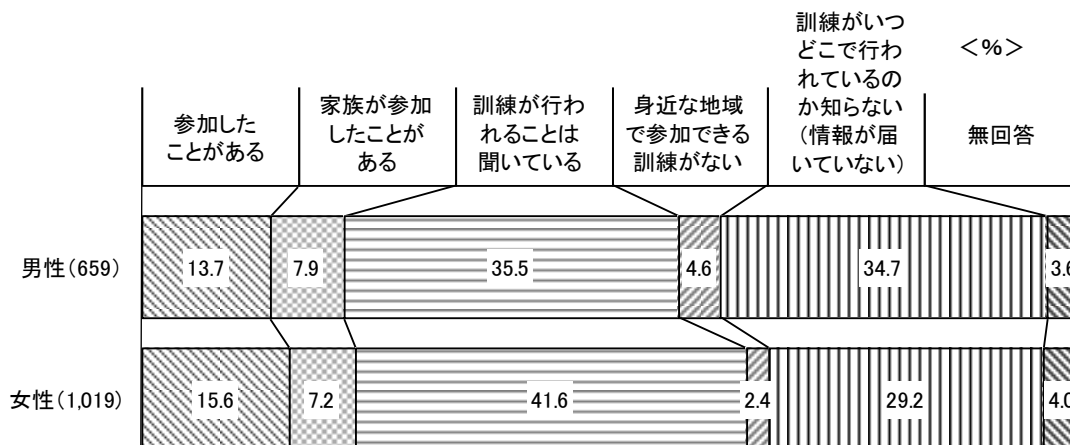
### 【経年比較】

- 平成 23 年度調査（セーフコミュニティに関する区民意識調査）と比較すると、「参加したことがある」は 1.4 ポイント低くなっている。

	参加したことがある	家族が参加したことがある	訓練が行われることは聞いている	身近な地域で参加できる訓練がない	訓練がいつどこで行われているのか知らない(情報が届いていない)	無回答
平成25年度(1,757)	14.8	7.6	38.9	3.1	31.2	4.4
平成23年度(1,765)	16.2	6.1	40.0	1.8	33.5	2.5

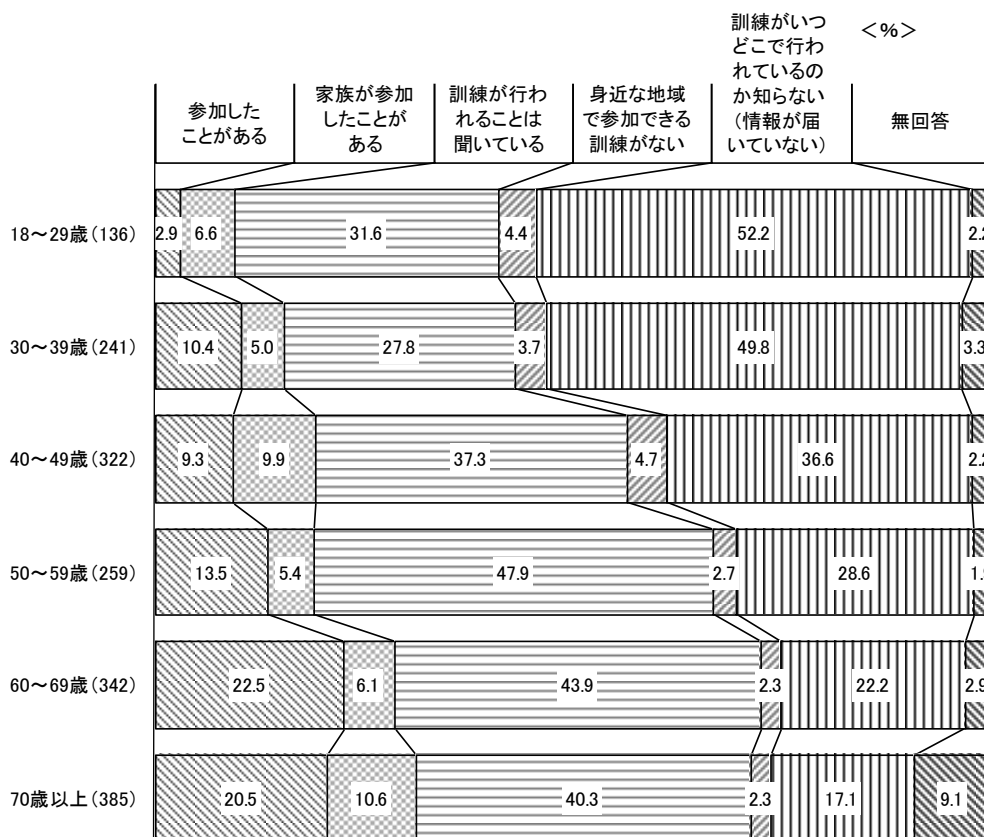
### 【性別】

- 「参加したことがある」は、女性（15.6%）が男性（13.7%）よりも1.9ポイント高くなっている。
- 「訓練がいつどこで行われているのか知らない（情報が届いていない）」は、男性（34.7%）が女性（29.2%）よりも5.5ポイント高くなっている。



### 【年齢別】

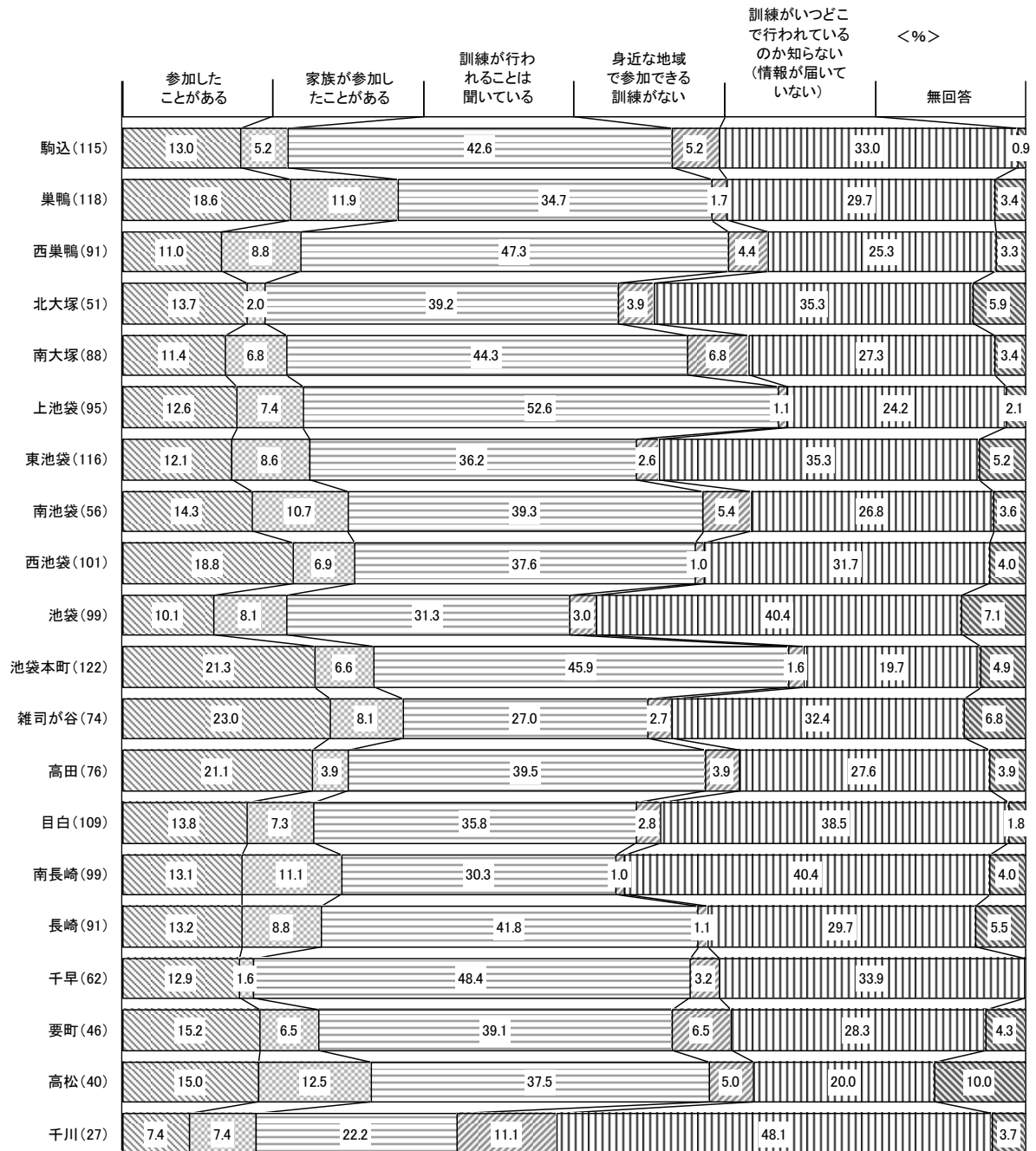
- 「参加したことがある」は、おおむね年齢が上がるほど高くなる傾向がみられ、60～69歳（22.5%）と70歳以上（20.5%）で2割を超えている。
- 「訓練がいつどこで行われているのか知らない」は18～29歳（52.2%）で5割を超えている。





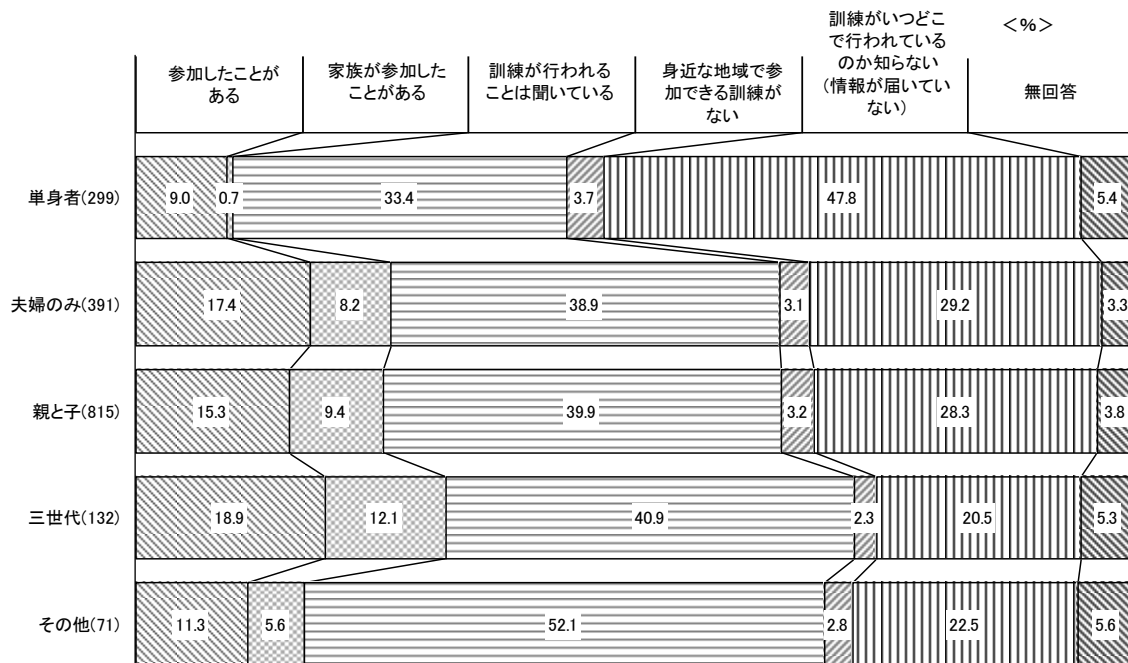
【町別】

- 「参加したことがある」は、雑司が谷（23.0%）、池袋本町（21.3%）、高田（21.1%）で2割を超えている。
- 「訓練がいつどこで行われているのか知らない」は、千川（48.1%）で約5割と最も高く、次いで、池袋（40.4%）、南長崎（40.4%）で4割を超えている。



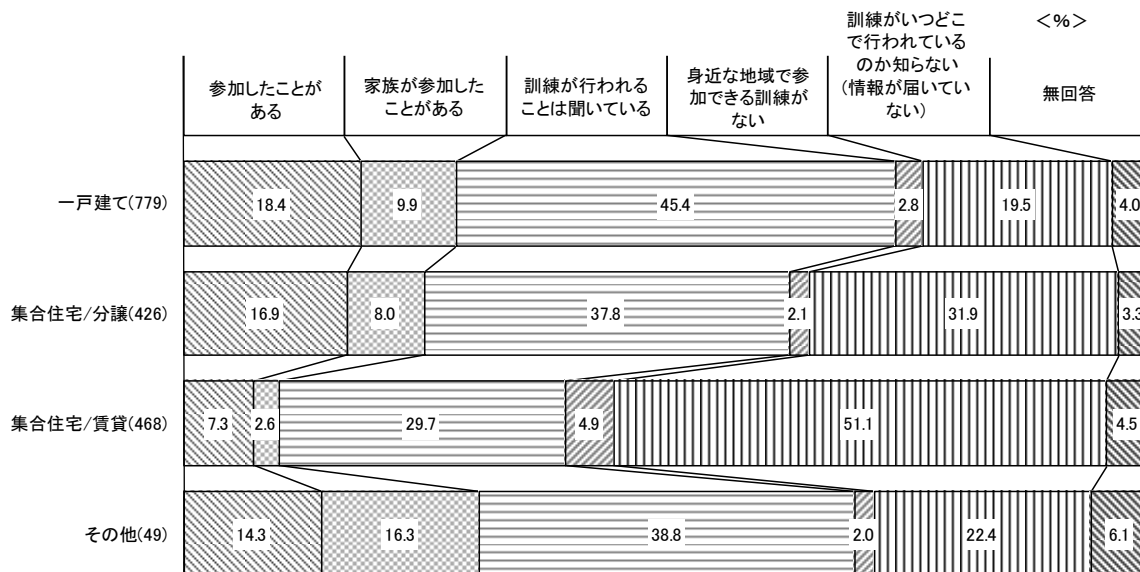
### 【世帯構成別】

- 「参加したことがある」は三世代（18.9%）で約2割と最も高くなっている。また、単身者（9.0%）は約1割と低くなっている。
- 「訓練がいつどこで行われているか知らない」は単身者（47.8%）で4割台半ばを超え高くなっている。



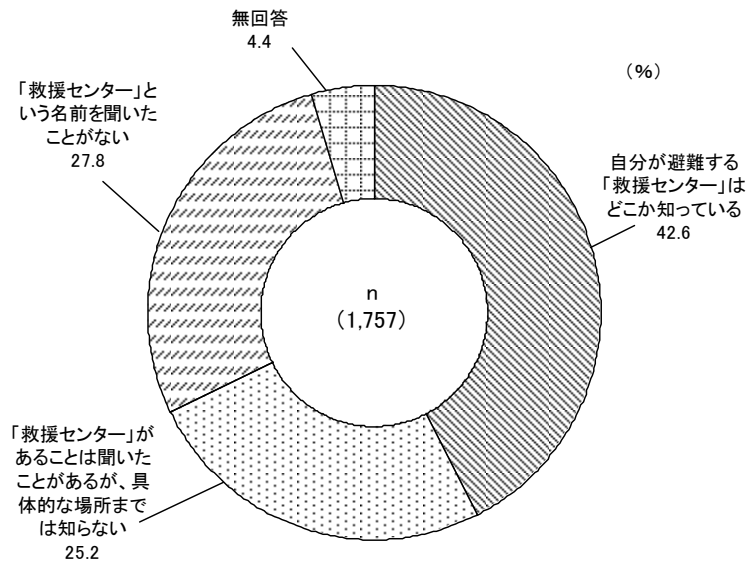
### 【住まい形態別】

- 「参加したことがある」は一戸建て（18.4%）で約2割と最も高くなっている。
- 「訓練がいつどこで行われているか知らない」は集合住宅（賃貸）（51.1%）で約5割となっている。



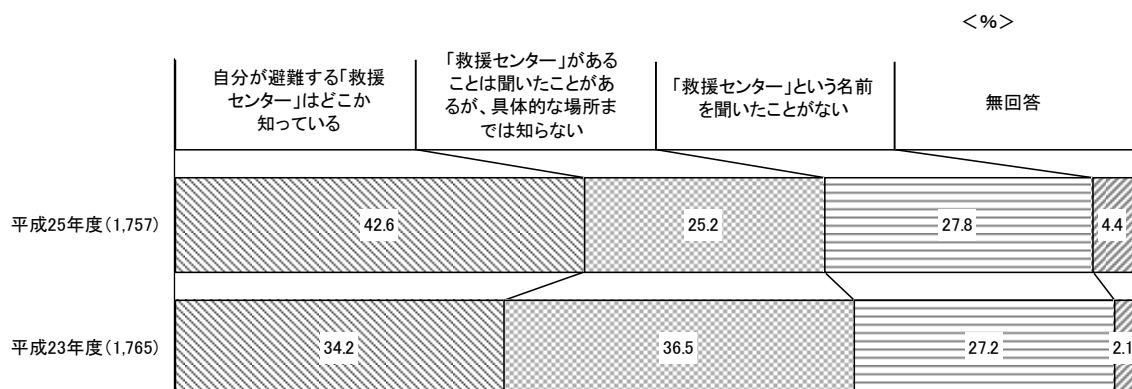
## 10 「救援センター」の認知度〔問 14〕

- 震災時等における避難所である「救援センター」の認知度について聞いたところ、「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」(42.6%) が4割強と最も高く、以下、「「救援センター」という名前を聞いたことがない」(27.8%)、「「救援センター」があることは聞いたことがあるが、具体的な場所までは知らない」(25.2%) などとなっている。



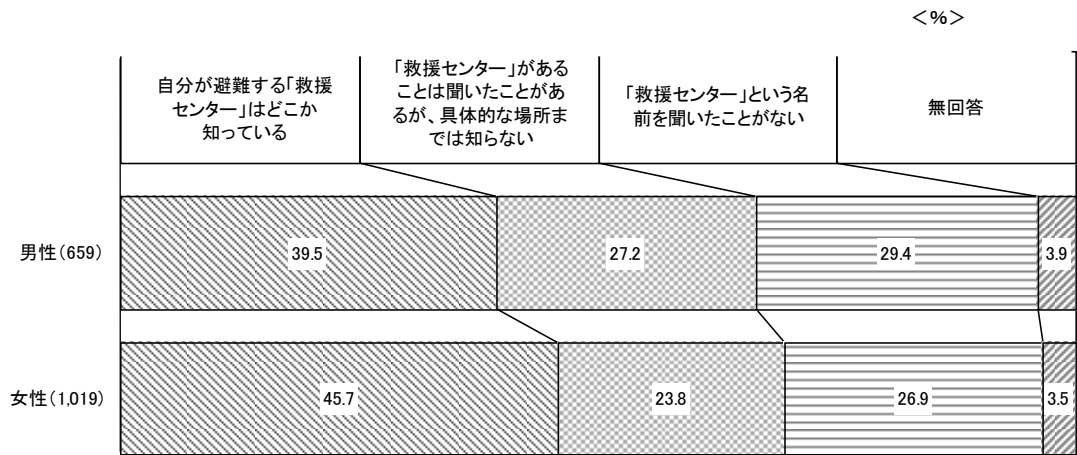
### 【経年比較】

- 平成 23 年度調査（セーフコミュニティに関する区民意識調査）と比較すると、「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は8.4ポイント高くなっている。
- 「「救援センター」という名前を聞いたことがない」は、ほぼ同程度となっている。



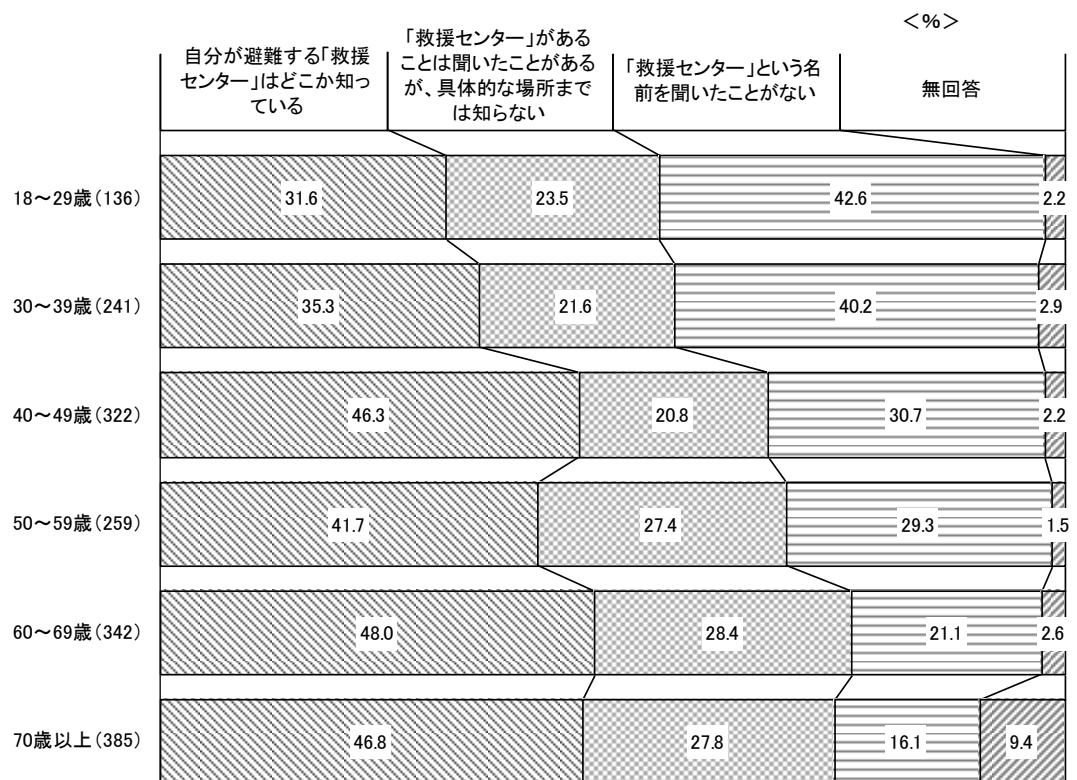
**【性別】**

- 「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は、女性（45.7%）が男性（39.5%）よりも6.2ポイント高くなっている。
- 「「救援センター」という名前を聞いたことがない」は、男性（29.4%）が女性（26.9%）よりも2.5ポイント高くなっている。



**【年齢別】**

- 「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は、60～69歳（48.0%）で4割台半ばを超え、70歳以上（46.8%）、40～49歳（46.3%）で4割台半ばとなっている。
- 「「救援センター」という名前を聞いたことがない」は、年齢が下がるほど高くなる傾向がみられ、18～29歳（42.6%）、30～39歳（40.2%）で4割を超えている。



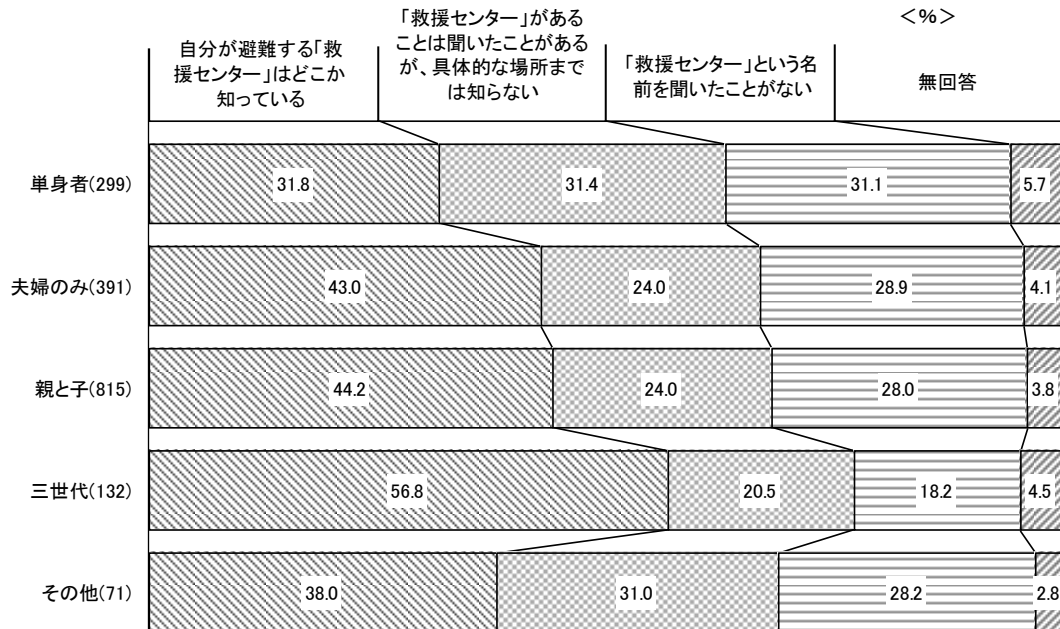
【町別】

- 「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は、雑司が谷（54.1%）で5割台半ば、北大塚（52.9%）、高田（52.6%）で5割強と高くなっている。
- 「救援センター」という名前を聞いたことがない」は、千川（37.0%）で3割台半ばを超え高くなっている。

	「救援センター」があることは聞いたことがあるが、具体的な場所までは知らない			
	自分が避難する「救援センター」はどこか知っている	「救援センター」という名前を聞いたことがない	<%>	
			無回答	
駒込(115)	46.1	20.9	30.4	2.6
巣鴨(118)	47.5	17.8	31.4	3.4
西巣鴨(91)	47.3	33.0	18.7	1.1
北大塚(51)	52.9	25.5	15.7	5.9
南大塚(88)	43.2	22.7	31.8	2.3
上池袋(95)	43.2	25.3	28.4	3.2
東池袋(116)	38.8	25.9	31.0	4.3
南池袋(56)	44.6	30.4	21.4	3.6
西池袋(101)	44.6	23.8	27.7	4.0
池袋(99)	39.4	25.3	31.3	4.0
池袋本町(122)	36.1	37.7	22.1	4.1
雑司が谷(74)	54.1	16.2	23.0	6.8
高田(76)	52.6	14.5	28.9	3.9
目白(109)	41.3	23.9	33.0	1.8
南長崎(99)	35.4	30.3	30.3	4.0
長崎(91)	40.7	25.3	26.4	7.7
千早(62)	43.5	29.0	25.8	1.6
要町(46)	43.5	28.3	23.9	4.3
高松(40)	42.5	20.0	27.5	10.0
千川(27)	33.3	22.2	37.0	7.4

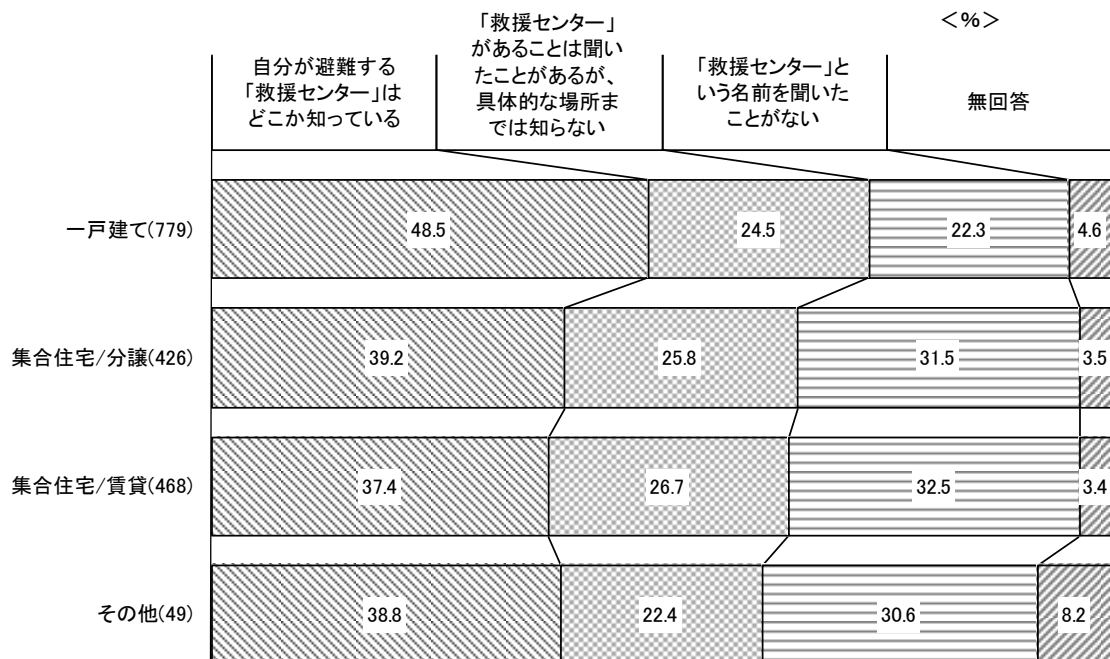
### 【世帯構成別】

- 「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は、三世代（56.8%）で5割台半ばと高くなっている。
- 「「救援センター」という名前を聞いたことがない」は、単身者（31.1%）で3割を超えている。



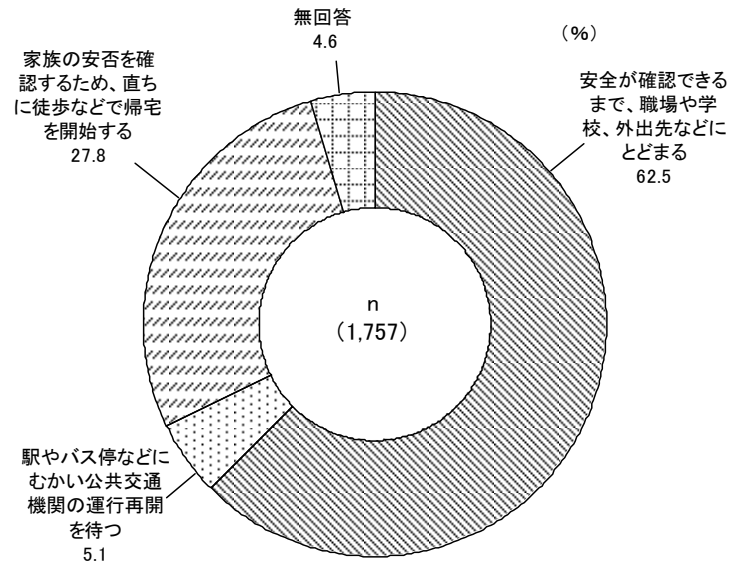
### 【住まい形態別】

- 「自分が避難する「救援センター」はどこか知っている」は、一戸建て（48.5%）で約5割と高くなっている。



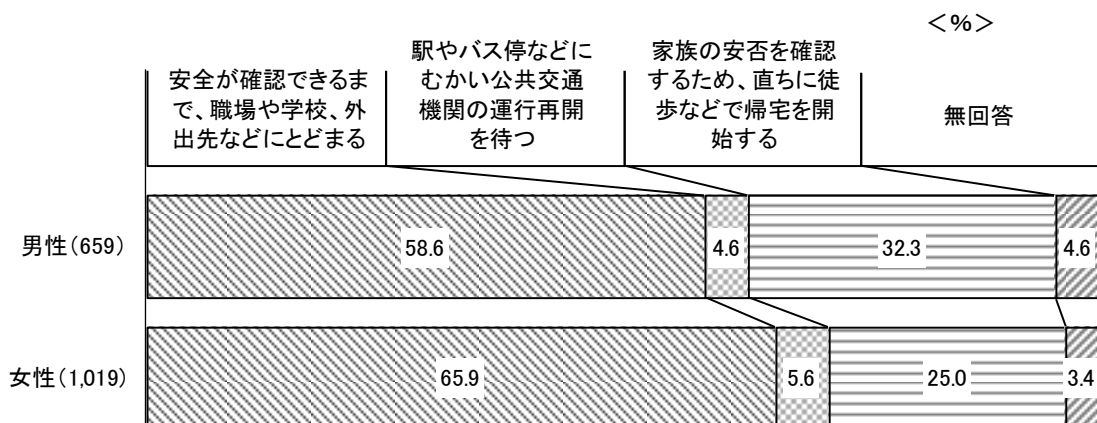
## 11 大地震により公共交通機関が停止した場合の行動〔問 15〕

- 大地震により公共交通機関が停止した場合の行動について聞いたところ、「安全が確認できるまで、職場や学校、外出先などにとどまる」(62.5%)が6割強と最も高く、次いで、「家族の安否を確認するため、直ちに徒歩などで帰宅を開始する」(27.8%)が3割弱となっている。



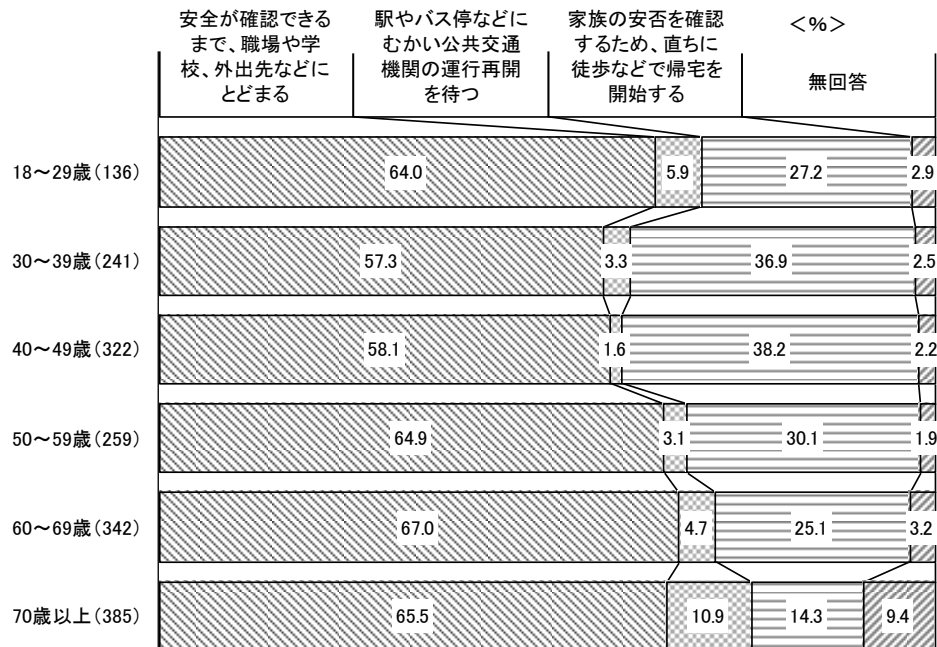
### 【性別】

- 「安全が確認できるまで、職場や学校、外出先などにとどまる」は、女性(65.9%)が男性(58.6%)よりも7.3ポイント高くなっている。
- 「家族の安否を確認するため、直ちに徒歩などで帰宅を開始する」は、男性(32.3%)が女性(25.0%)よりも7.3ポイント高くなっている。



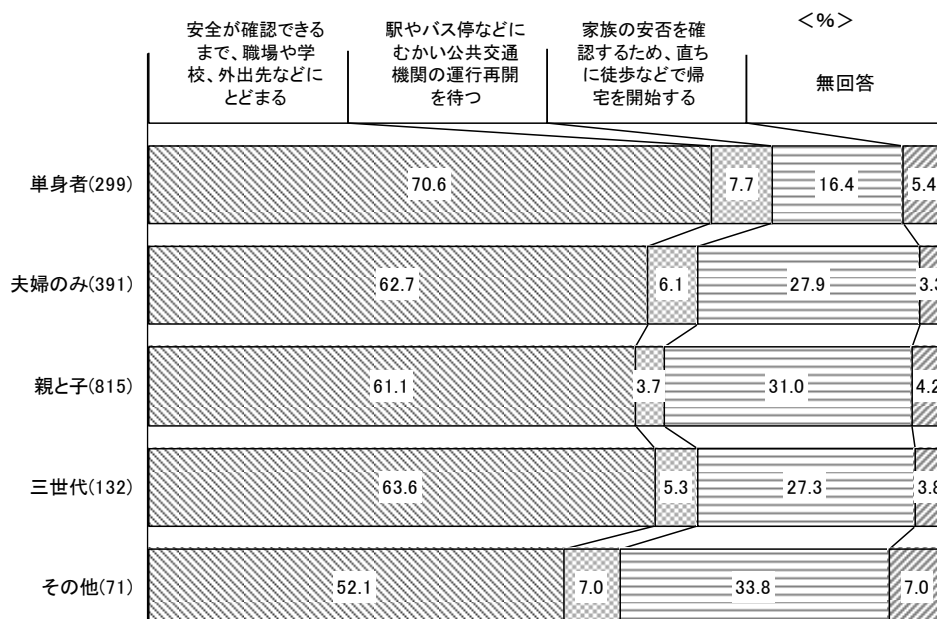
### 【年齢別】

- 「安全が確認できるまで、職場や学校、外出先などにとどまる」は、60～69 歳（67.0%）で6割台半ばを超え最も高くなっている。
- 「家族の安否を確認するため、直ちに徒歩などで帰宅を開始する」は、40～49 歳（38.2%）で約4割、30～39 歳（36.9%）で3割台半ばと高くなっている。



### 【世帯構成別】

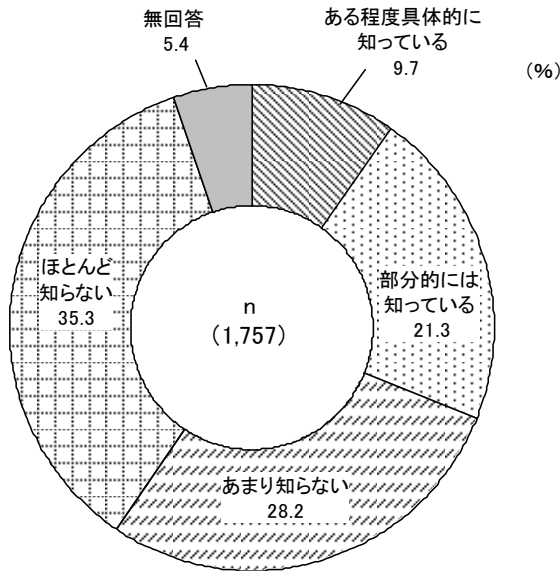
- 「安全が確認できるまで、職場や学校、外出先などにとどまる」は、単身者（70.6%）で約7割と最も高くなっている。
- 「家族の安否を確認するため、直ちに徒歩などで帰宅を開始する」は、その他の世帯（33.8%）で約3割台半ば、親と子（31.0%）で約3割と高くなっている。





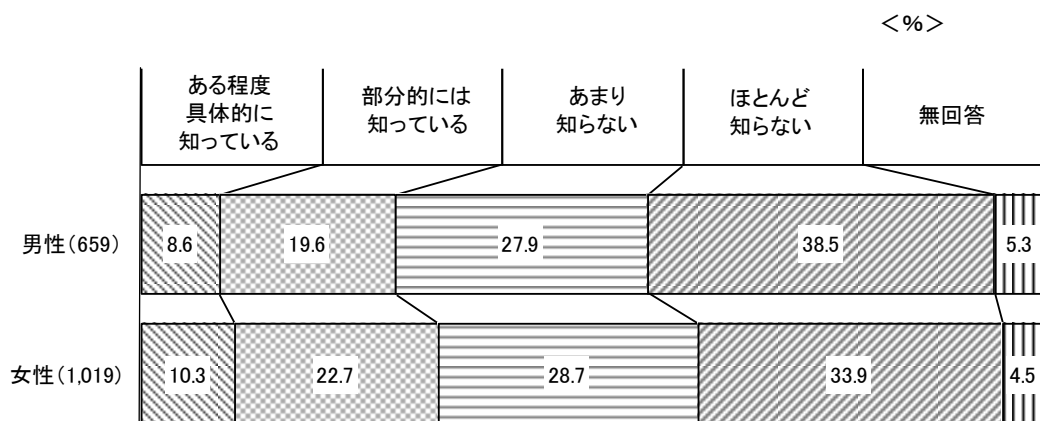
## 12-① 高齢者虐待に対する区民の理解度〔問 16〕

- 高齢者に関する虐待や暴力及び通告・通報制度について聞いたところ、「ある程度具体的に知っている」(9.7%)と「部分的には知っている」(21.3%)を合わせた“知っている”(31.0%)としてみると、約3割となっている。



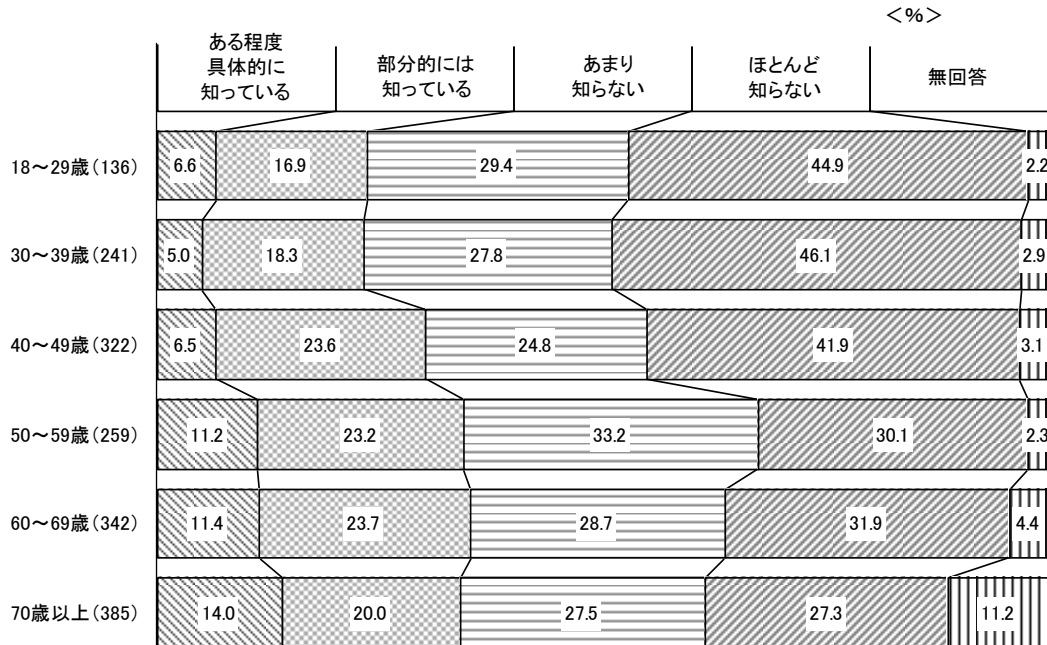
### 【性別】

- “知っている”は、女性(33.0%)が男性(28.2%)より4.8ポイント高くなっている。



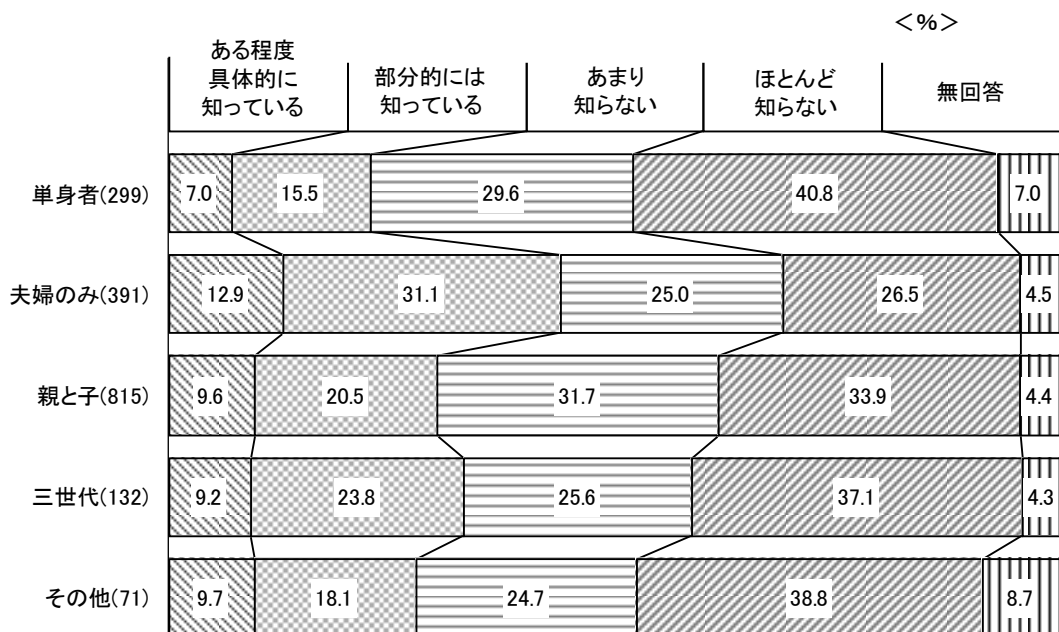
### 【年齢別】

- “知っている”は、おおむね年齢が上がるほど高くなる傾向がみられ、60～69歳（35.1%）で3割台半ばとなっている。
- “知らない”は、18～29歳（74.3%）と30～39歳（73.9%）で7割台半ばと高くなっている。



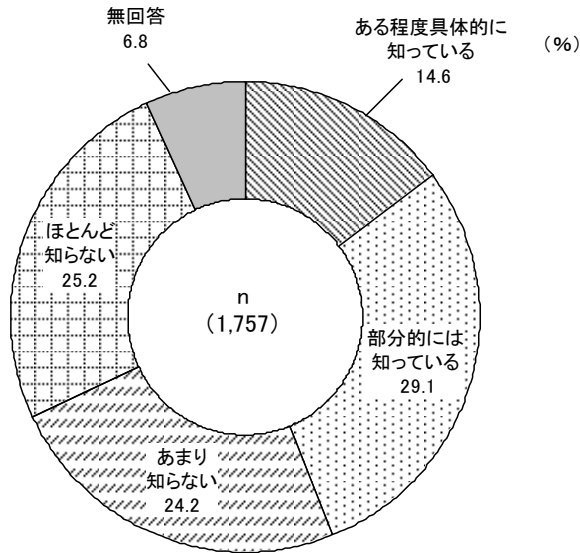
### 【世帯構成別】

- “知っている”は、夫婦のみ（44.0%）で4割台半ばと高くなっている。
- “知らない”は、単身者（70.4%）で7割を超えている。



## 12-② 児童虐待に対する区民の理解度〔問 16〕

- 児童に関する虐待や暴力及び通告・通報制度について聞いたところ、「ある程度具体的に知っている」(14.6%)と「部分的には知っている」(29.1%)を合わせた“知っている”(43.7%)としてみると、4割台半ばとなっている。



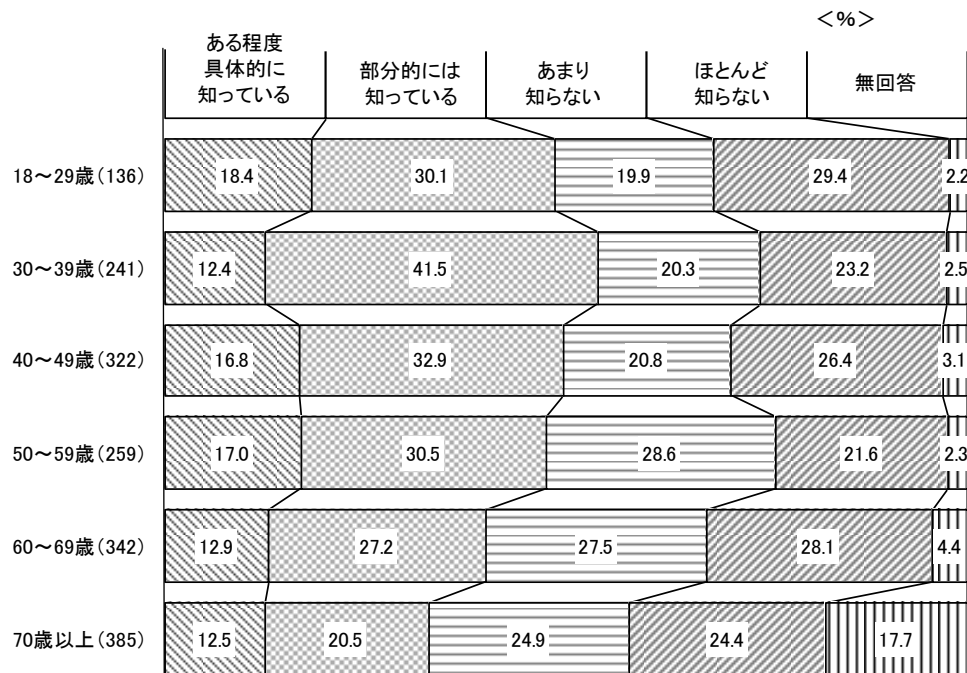
### 【性別】

- “知っている”は、女性(47.5%)で5割弱、男性(38.9%)で約4割となっており、女性が男性より8.6ポイント高くなっている。

	<%>				
	ある程度具体的に知っている	部分的には知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	無回答
男性(659)	12.0	26.9	25.8	29.3	6.1
女性(1,019)	16.2	31.3	23.2	23.1	6.3

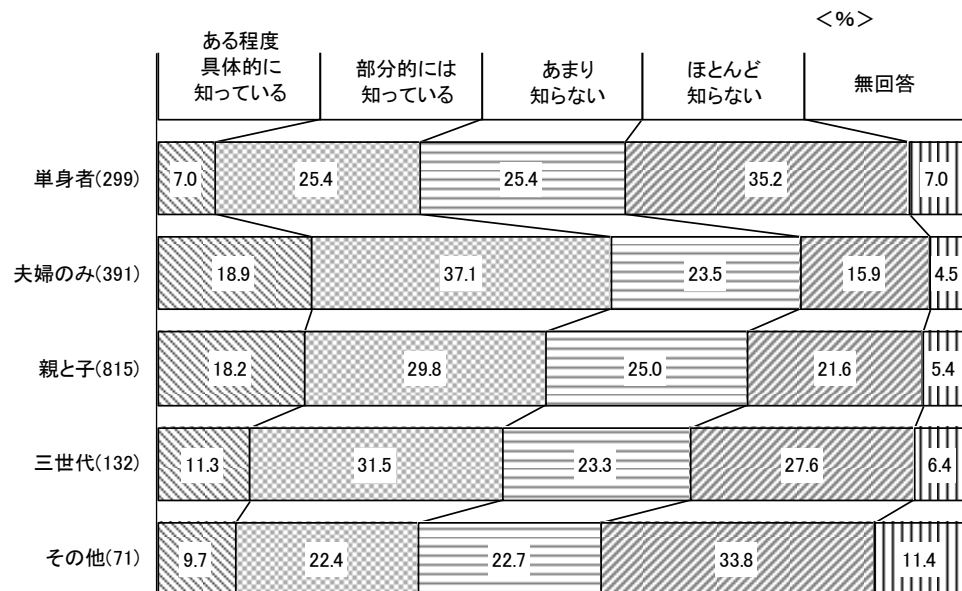
### 【年齢別】

● “知っている” は、30～39歳（53.9%）で5割台半ばと最も高くなっている。



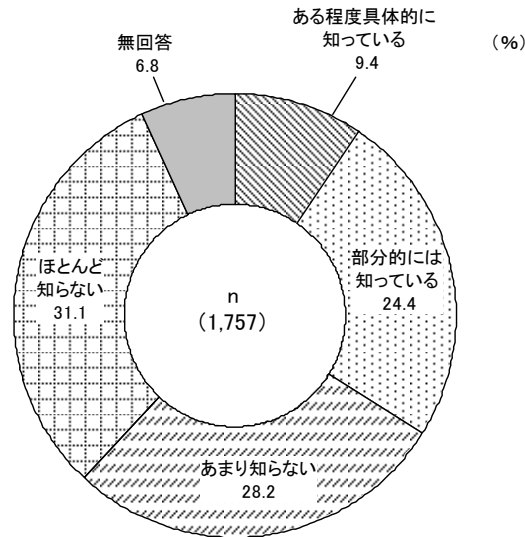
### 【世帯構成別】

● “知っている” は、夫婦のみ（56.0%）で5割台半ばと最も高く、次いで、親と子（48.0%）となっている。



## 12-③ DV（ドメスティック・バイオレンス）に対する区民の理解度〔問16〕

- DVに関する虐待や暴力及び通告・通報制度について聞いたところ、「ある程度具体的に知っている」（9.4%）と「部分的には知っている」（24.4%）を合わせた“知っている”（33.8%）としてみると、3割台半ばとなっている。



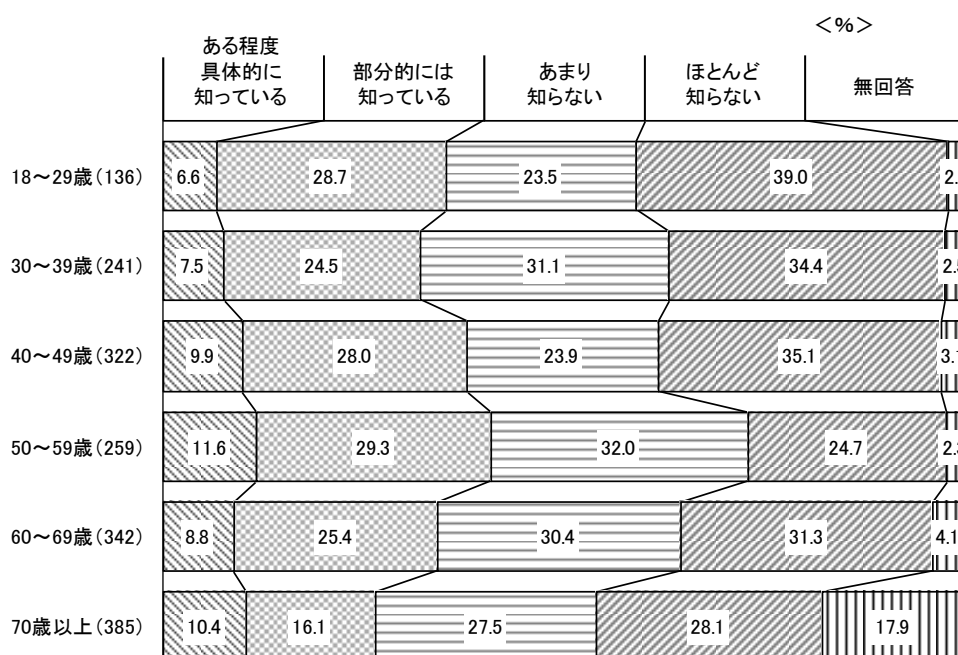
### 【性別】

- “知っている”は、女性（36.2%）が男性（30.4%）より5.8ポイント高くなっている。

	ある程度具体的に知っている	部分的には知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	無回答
男性(659)	7.0	23.4	30.2	33.4	6.1
女性(1,019)	10.9	25.3	27.3	30.2	6.3

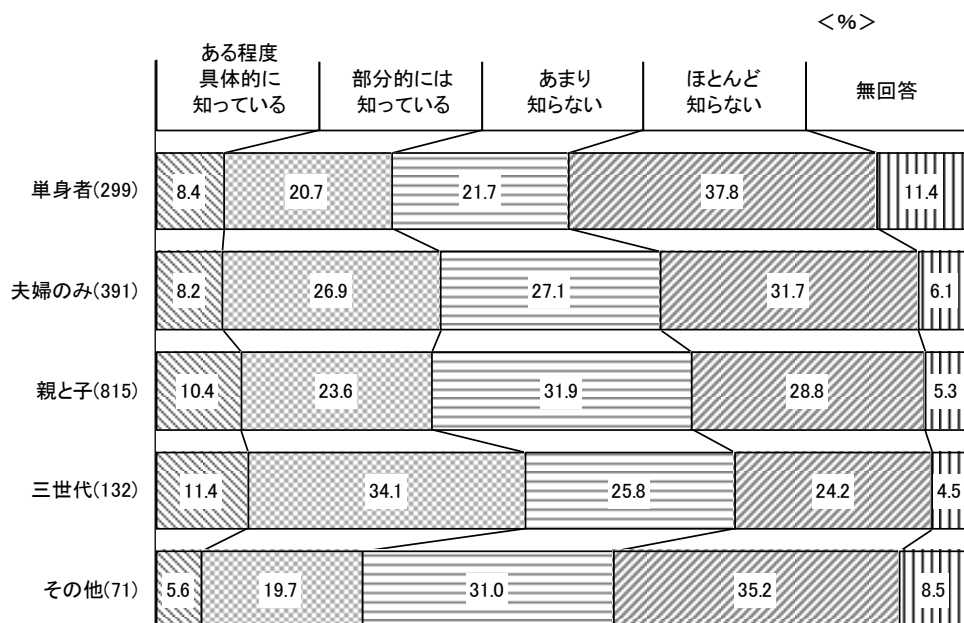
### 【年齢別】

- “知っている” は、50～59歳（40.9%）で約4割と最も高く、以下、40～49歳（37.9%）、18～29歳（35.3%）などとなっている。



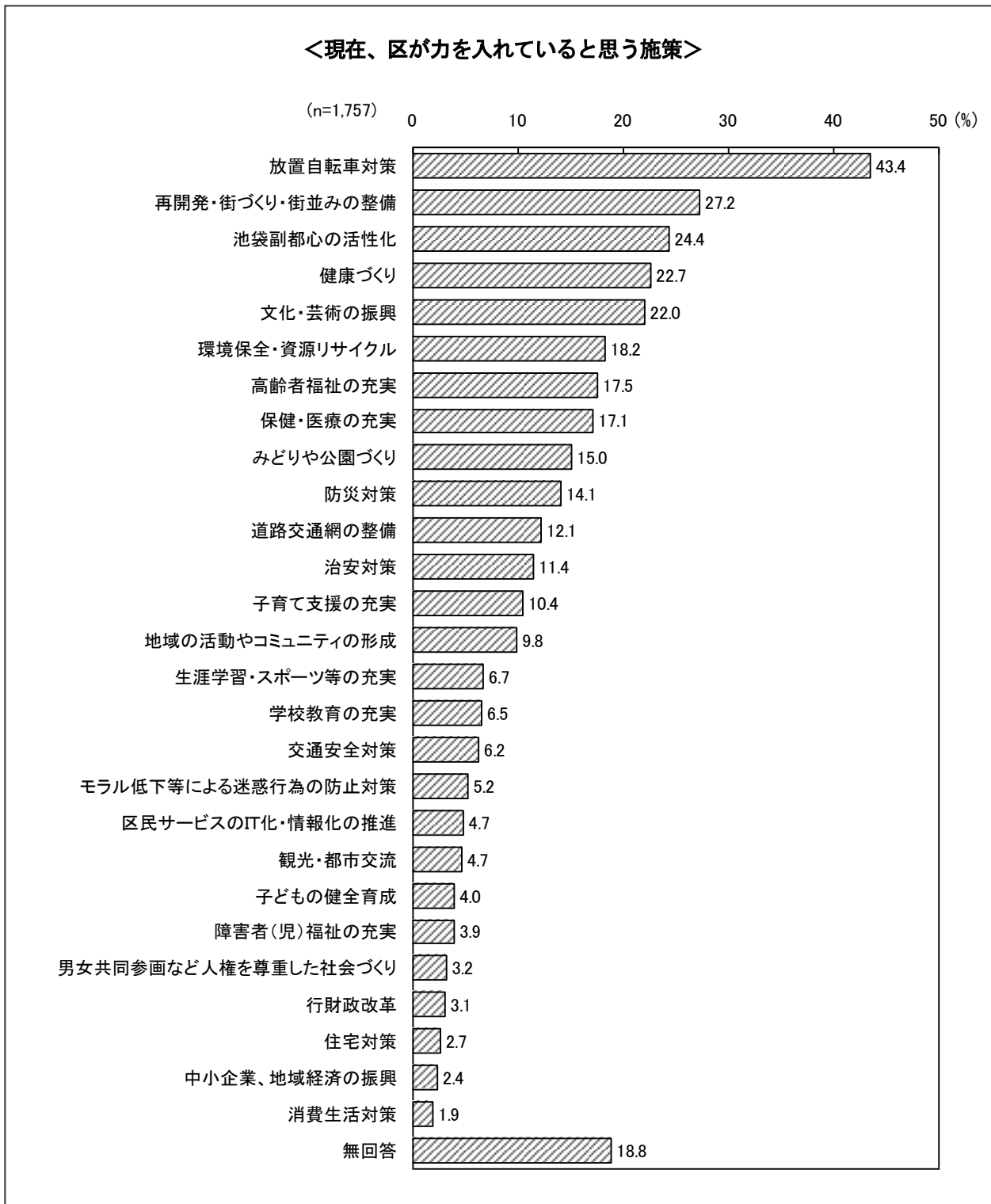
### 【世帯構成別】

- “知っている” は、三世代（45.5%）で4割台半ばと最も高く、以下、夫婦のみ（35.1%）、親と子（34.0%）となっている。



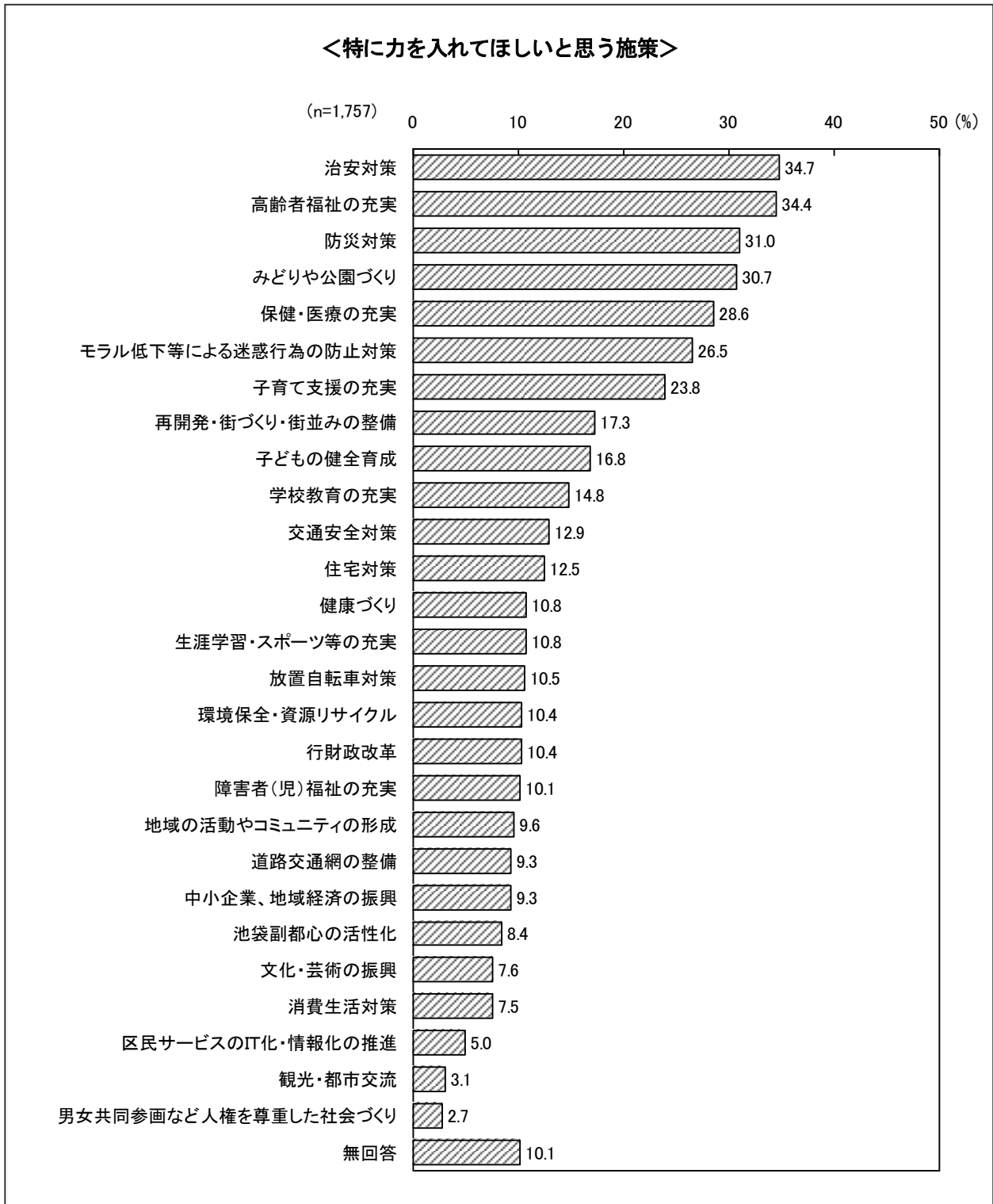
## 13 区政全般への要望〔問17〕

- 区政全般への要望について聞いたところ、現在、区が力を入れていると思う施策は、「放置自転車対策」(43.4%)が4割台半ばと最も高く、以下、「再開発・街づくり・街並みの整備」(27.2%)、「池袋副都心の活性化」(24.4%)などとなっている。



※5つ選択

●特に力を入れてほしいと思う施策は、「治安対策」(34.7%)が3割台半ばと最も高く、以下、「高齢者福祉の充実」(34.4%)、「防災対策」(31.0%)、「みどりや公園づくり」(30.7%)などとなっている。



※5つ選択



## 【経年比較】

- 前回の調査と比較すると、上位 10 項目中で、平成 22 年度よりも順位が高くなったものは、「治安対策」「防災対策」「再開発・街づくり・街並みの整備」の3項目となっている。
- 上位 10 項目中で、平成 22 年度よりも順位が低くなったものは、「高齢者福祉の充実」「保健・医療の充実」「モラル低下等による迷惑行為の防止対策」「学校教育の充実」の4項目となっている。

## &lt;平成 25 年度&gt;

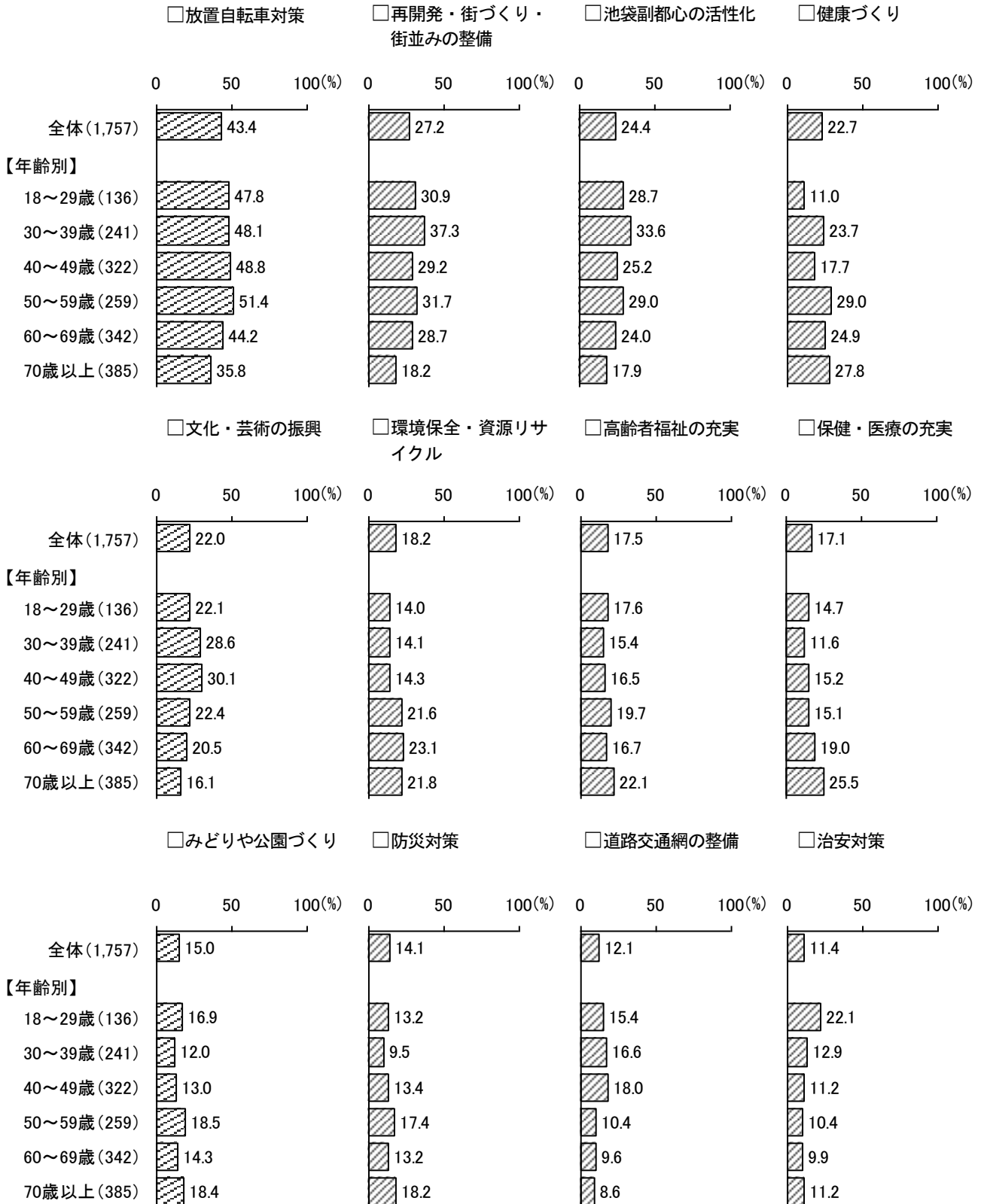
## &lt;平成 22 年度&gt;

順位	施策	%	順位比較	順位	%
1	治安対策	34.7	←	3	37.0
2	高齢者福祉の充実	34.4	←	1	44.1
3	防災対策	31.0	←	6	21.8
4	みどりや公園づくり	30.7	←---	4	30.5
5	保健・医療の充実	28.6	←	2	37.8
6	モラル低下等による迷惑行為の防止対策	26.5	←	5	29.9
7	子育て支援の充実	23.8	←---	7	20.1
8	再開発・街づくり・街並みの整備	17.3	←	11	14.8
9	子どもの健全育成	16.8	←---	9	15.9
10	学校教育の充実	14.8	←	8	16.1
11	交通安全対策	12.9	←	15	11.8
12	住宅対策	12.5	←	18	10.8
13	健康づくり	10.8	←---	13	11.8
14	生涯学習・スポーツ等の充実	10.8	←	16	11.4
15	放置自転車対策	10.5	←	12	12.9
16	環境保全・資源リサイクル	10.4	←	14	11.8
17	行財政改革	10.4	←	10	15.2
18	障害者（児）福祉の充実	10.1	←	17	10.9
19	地域の活動やコミュニティの形成	9.6	←	20	10.5
20	道路交通網の整備	9.3	←	21	9.0
21	中小企業、地域経済の振興	9.3	←	19	10.7
22	池袋副都心の活性化	8.4	←---	22	8.9
23	文化・芸術の振興	7.6	←	24	8.2
24	消費生活対策	7.5	←	23	8.5
25	区民サービスのIT化・情報化の推進	5.0	←---	25	4.2
26	観光・都市交流	3.1	←	27	2.3
27	男女共同参画など人権を尊重した社会づくり	2.7	←	26	3.0

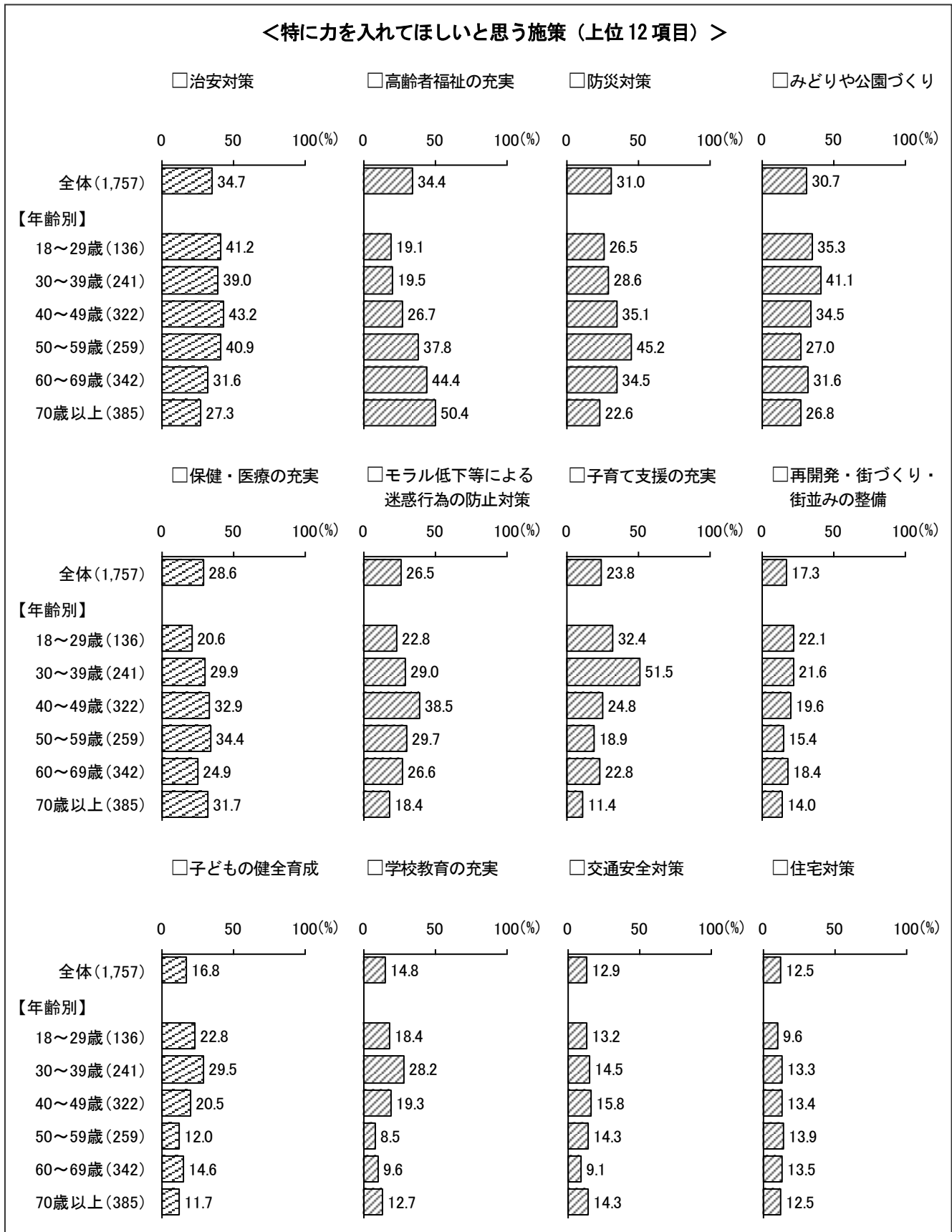
【年齢別】

- 「放置自転車対策」は70歳以上（35.8%）を除く全ての年齢で4割を超えている。
- 「再開発・街づくり・街並みの整備」は30～39歳（37.3%）で最も高く、以下、50～59歳（31.7%）、18～29歳（30.9%）と続いている。

＜現在、区が力を入れていると思う施策（上位12項目）＞



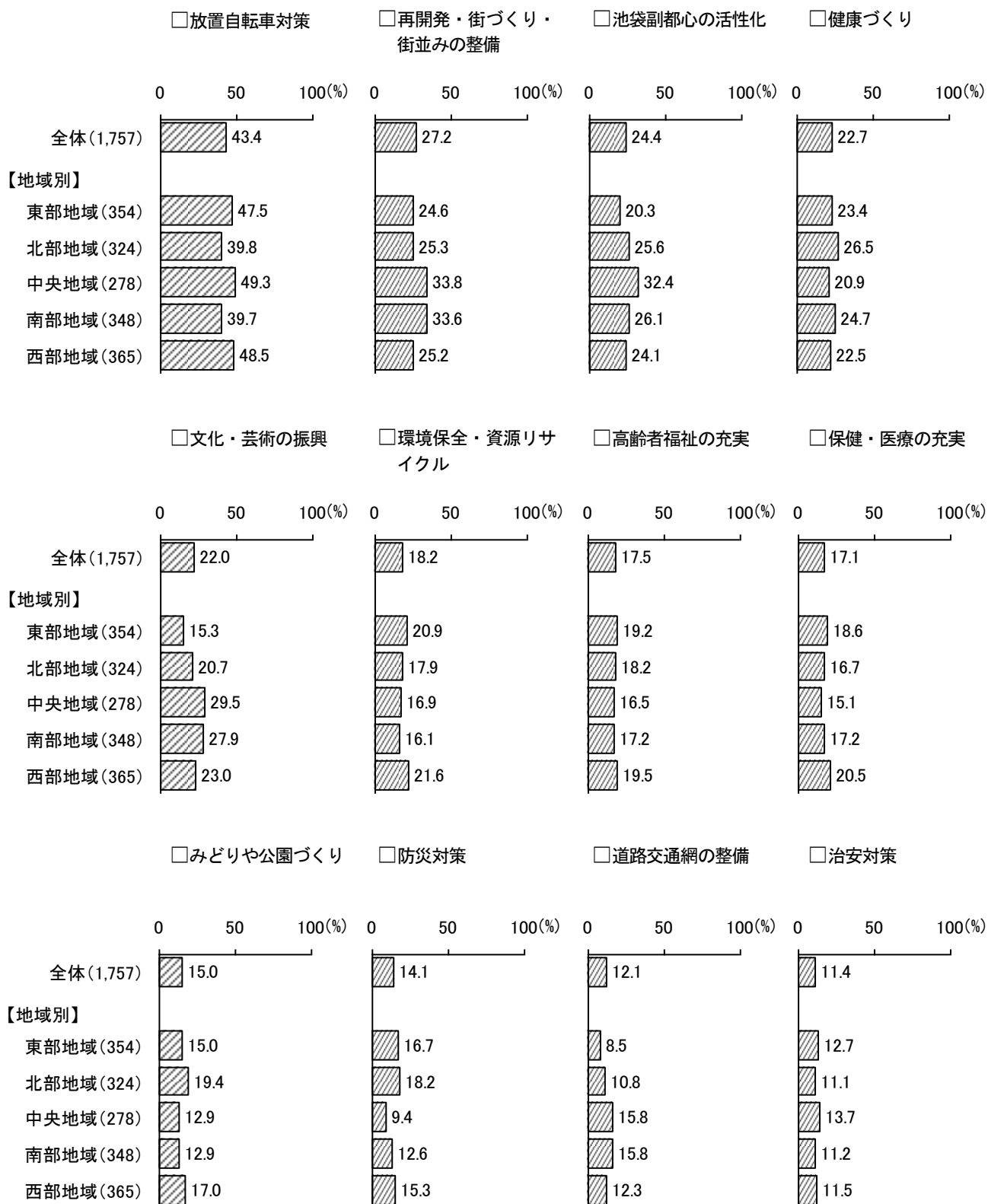
- 「治安対策」は40～49歳(43.2%)で最も高く、以下、18～29歳(41.2%)、50～59歳(40.9%)と続いている。
- 「高齢者福祉の充実」は年齢が上がるほど高くなり、70歳以上(50.4%)で約5割となっている。



【地域別】

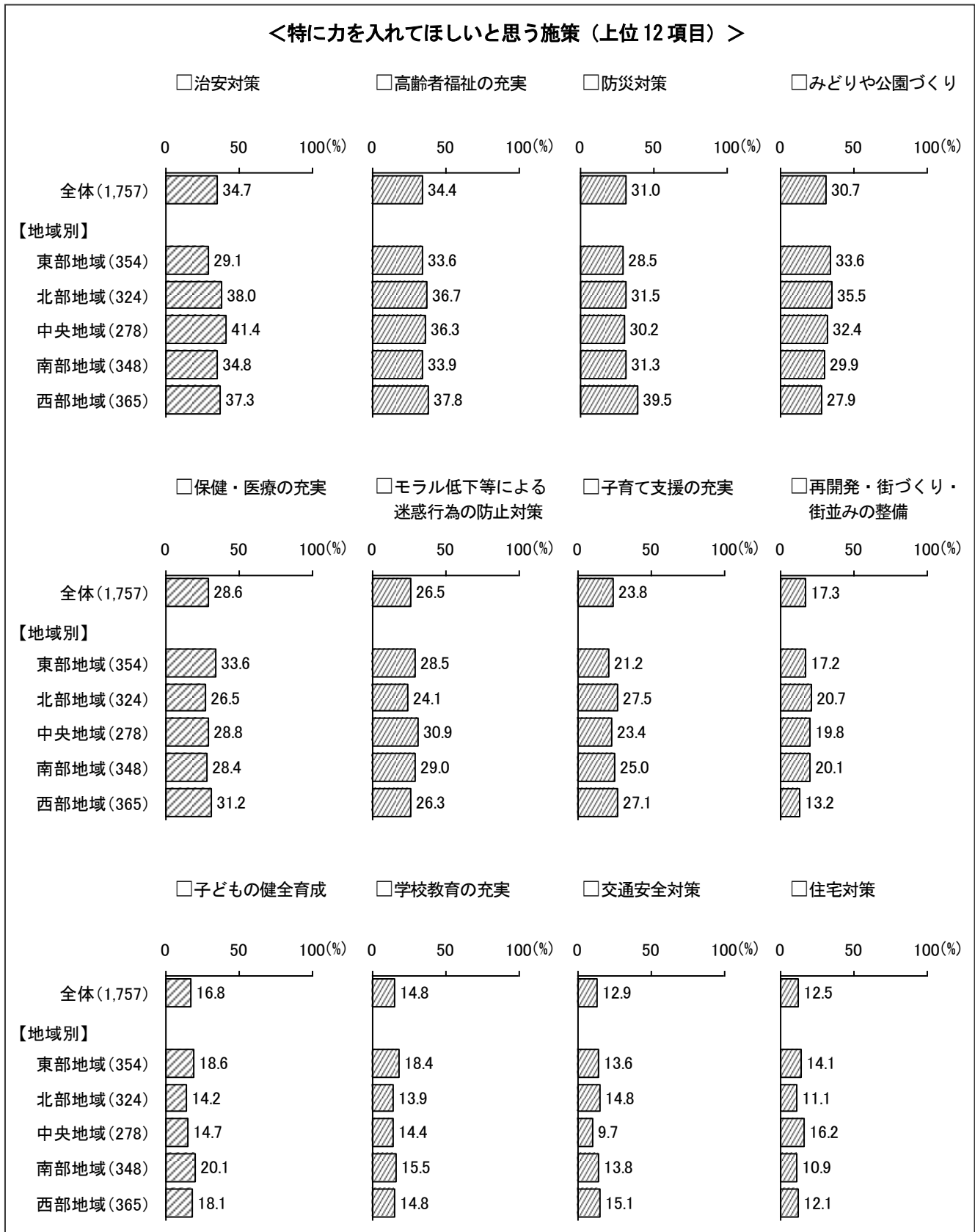
- 「放置自転車対策」は中央地域（49.3%）と西部地域（48.5%）で約5割となっている。
- 「再開発・街づくり・街並みの整備」は中央地域（33.8%）と南部地域（33.6%）で3割台半ばとなっており、他の地域を8～9ポイント上回っている。

<現在、区が力を入れていると思う施策（上位12項目）>



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

- 「治安対策」は中央地域（41.4%）で唯一4割を超えている。
- 「高齢者福祉の充実」は西部地域（37.8%）で3割台半ばを超えており、次いで北部地域（36.7%）で3割台半ばとなっている。



## ● 総合分析

「現在、区が力を入れていると思う施策（現在の評価）」と「特に力を入れてほしいと思う施策（今後の優先度）」の調査結果を下記により数値化し、この二つの評価を軸として、総合分析を行った。また、前回調査と比較するため、◆が今回調査、◇が前回調査とし、前回から今回への推移を矢印で表した。

### 《数値化の方法》

それぞれの設問について、下記のとおり数値化した。

- 現在の評価  
各項目の回答割合 (%)
- 今後の優先度  
各項目の回答割合 (%)

このグラフで右下に位置していればいるほど、「現在の評価は低いが、今後の優先度は高い」ことになり、改善に向けて力を入れていく必要があるということになる。

- 現在の評価が低いが、今後の優先度は高い項目は、優先度が高い順に「治安対策」「高齢者福祉の充実」「防災対策」「みどりや公園づくり」となっている。このうち、「防災対策」については、前回（H22）と比較すると優先度が9.2ポイント高くなっている。

